

## 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部設置							
フリガナ設置者	コリツガク ｲﾝﾊﾞﾙｼﾞﾝ ﾏﻳｼﾞｶﾞ ﾏﻳｸ 国立大学法人 宮崎大学							
フリガナ大学の名称	ﾏﻳｼﾞｶﾞ ﾏﻳｸ 宮崎大学 (University of Miyazaki)							
大学本部の位置	宮崎県宮崎市学園木花台西1-1							
大学の目的	<p>本学は、人類の英知の結晶としての学術・文化に関する知的遺産を継承・発展させ、豊かな人間性と創造的な課題解決能力を備えた人材の育成を目的とし、学術・文化の基軸として、地域社会及び国際社会の発展と人類の福祉の向上に資することを使命とする。</p>							
新設学部等の目的	<p>今日、我が国の地域社会は、少子高齢化・人口減少、グローバル化、さらには地方分権の進展と厳しい財政状況など様々な課題に直面している。特に、少子高齢化が加速度的に進行する中山間地域を抱え、後継者不足や若者の県外流出、グローバル化に伴う産業間競争の激化により地域社会経済全体が衰退傾向にある宮崎県などの地域では、自律的で持続可能な社会づくりに向け、地域資源を経済的価値に転換できる仕組みや、国内外市場の開拓やリンケージ構築、地域活動の有機的連結とその活性化を実現できる人材の存在が強く望まれている。</p> <p>地域資源創成学部では、「マネジメントの専門知識」と、「社会・人文科学、及び農学・工学分野の利活用技術の基礎知識」を教授する異分野融合のカリキュラムを構築するとともに、研究者教員と実務家教員とが協働した実践的教育、宮崎県全域をフィールドとした実習や国内・海外インターンシップによる地域の方たちと一体となった協働教育を導入する。</p> <p>これらにより、「企画力」「実践力」の育成を図り、地域の活性化に不可欠な社会を牽引するイノベーション創出に向けたマネジメントの知識と、地域資源の価値を複眼的に捉える視野を持った人材を養成し、地域から要望が高い、実社会で即戦力として活躍できる人材の輩出を目指す。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	地域資源創成学部 [Faculty of Regional Innovation] 地域資源創成学科 [Department of Regional Innovation] 計	年	人	年次人	人	学士（地域資源創成学）	年 月 第 年次	宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>○平成28年4月 教育文化学部を教育学部に名称変更（平成27年5月事前伺い提出済み） 学校教育課程（△30） 人間社会課程（△80） — ※平成28年4月学生募集停止</p> <p>○平成28年4月 農学部の定員増（20名）（平成27年7月申請） 植物生産環境科学科 [定員増] (+2) 森林緑地環境科学科 [定員増] (+2) 応用生物科学科 [定員増] (+2) 海洋生物環境科学科 [定員増] (+3) 畜産草地科学科 [定員増] (+11)</p> <p>○平成28年4月 工学研究科の改組（平成27年5月事前伺い提出済み） 応用物理学専攻（廃止）（△17） 物質環境化学専攻（廃止）（△27） 電気電子工学専攻（廃止）（△36） 土木環境工学専攻（廃止）（△16） 機械システム工学専攻（廃止）（△19） 情報システム工学専攻（廃止）（△19） 工学専攻（134）</p> <p style="text-align: right;">※平成28年4月学生募集停止</p>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	地域資源創成学部 地域資源創成学科	講義	演習	実験・実習	計	129単位		
		150科目	5科目	13科目	168科目			

	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	人
			教授	准教授	講師	助教	計		
新設分	地域資源創成学部 地域資源創成学科		8 (8)	8 (8)	8 (8)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	63 (64)
	計		8 (8)	8 (8)	8 (8)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	— (—)
教 員 組 織 の 設 概 要	既	教育学部 学校教育課程	24 (22)	28 (28)	7 (6)	0 (0)	59 (56)	0 (0)	22 (22)
		医学部 医学科	34 (34)	26 (26)	8 (8)	77 (77)	145 (145)	0 (0)	94 (94)
		看護学科	12 (12)	2 (2)	5 (5)	10 (10)	29 (29)	1 (1)	94 (94)
		工学部 環境応用化学科	5 (5)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	7 (7)
		社会環境システム工学科	5 (5)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	8 (8)
		環境ロボティクス学科	4 (4)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	6 (6)
		機械設計システム工学科	4 (4)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	3 (3)
		電子物理工学科	5 (5)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	6 (6)
		電気システム工学科	5 (5)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	6 (6)
		情報システム工学科	4 (4)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	5 (5)
		環境・エネルギー工学研究センター	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		工学基礎教育センター	4 (4)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
	国際教育センター	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
	分	農学部 植物生産環境科学科	5 (5)	8 (8)	1 (1)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	14 (14)
		森林緑地環境科学科	7 (7)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	12 (12)
		応用生物科学科	9 (9)	9 (9)	0 (0)	2 (2)	20 (20)	0 (0)	11 (11)
		海洋生物環境学科	6 (6)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	15 (15)
		畜産草地科学科	6 (6)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	14 (14)	0 (0)	13 (13)
		獣医学科	10 (10)	9 (9)	0 (0)	6 (6)	25 (25)	0 (0)	12 (12)
		計	151 (149)	135 (135)	38 (37)	101 (101)	425 (422)	1 (1)	— (—)
合 計		159 (157)	143 (143)	46 (45)	101 (101)	449 (446)	1 (1)	— (—)	
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		251人 (251人)		0人 (0人)		251人 (251人)		
	技 術 職 員		467人 (467人)		0人 (0人)		467人 (467人)		
	図 書 館 専 門 職 員		5人 (5人)		0人 (0人)		5人 (5人)		
	そ の 他 の 職 員		18人 (18人)		0人 (0人)		18人 (18人)		
	計		741人 (741人)		0人 (0人)		741人 (741人)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	380,332㎡	0㎡	0㎡		380,331㎡			
	運 動 場 用 地	107,787㎡	0㎡	0㎡		107,787㎡			
	小 計	488,119㎡	0㎡	0㎡		488,119㎡			
	そ の 他	7,364,335㎡	0㎡	0㎡		7,364,335㎡			
合 計	7,852,454㎡	0㎡	0㎡		7,852,454㎡				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
	104,402㎡ ( 104,402㎡)	0㎡ ( 0㎡)	0㎡ ( 0㎡)		104,402 ( 104,402㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	89室	36室	772室	6室 (補助職員0人)	3室 (補助職員0人)				
専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	地域資源創成学部			24		室			

平成27年5月事前  
伺い提出済み

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体			
	地域資源創成学部	625,612 [185,586] (625,612 [185,586])	16,175 [4,762] (16,175 [4,762])	6,049 [6,049] (6,049 [6,049])	4,791 (4,791)	37,327 (37,327)	70 (70)				
	計	625,612 [185,586] (625,612 [185,586])	16,175 [4,762] (16,175 [4,762])	6,049 [6,049] (6,049 [6,049])	4,791 (4,791)	37,327 (37,327)	70 (70)				
図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体					
		6,692㎡		622席		544,000冊					
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要									
	4,444㎡	武道場、弓道場、多目的グラウンド、球技コート、テニスコート、プール									
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費（運営交付金）による。	
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—		
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—		
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	—		
		設備購入費	—	—	—	—	—	—	—		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			—								
既設大学等の状況	大学の名称	宮崎大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	教育文化学部	年	人	年次人	人		倍		宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地		
	学校教育課程	4	150	—	600	学士（教育学）	1.04	平成20年度			
	人間社会課程	4	80	—	320	学士（教養）	1.04	平成20年度			
	医学部						1.00		宮崎県宮崎市清武町木原5200番地	4年制学科 6年制学科	
	医学科	6	110	3年次	660	学士（医学）	1.00	平成15年度			
	看護学科	4	60	10	260	学士（看護学）	1.00	平成15年度			
	工学部						1.02		宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地		
	環境応用化学科	4	58	—	232	学士（工学）	1.01	平成24年度			
	社会環境システム工学科	4	53	—	212	学士（工学）	1.01	平成24年度			
	環境ロボティクス学科	4	49	—	196	学士（工学）	1.01	平成24年度			
	機械設計システム工学科	4	54	—	216	学士（工学）	1.04	平成24年度			
	電子物理工学科	4	53	—	212	学士（工学）	1.01	平成24年度			
	電気システム工学科	4	49	—	196	学士（工学）	1.03	平成24年度			
	情報システム工学科	4	54	—	216	学士（工学）	1.04	平成24年度			
	(学科共通)	—	—	3年次 10	20						
	材料物理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成15年度			平成24年度より学生募集停止
	物質環境化学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成15年度			平成24年度より学生募集停止
	電気電子工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成15年度	平成24年度より学生募集停止		
土木環境工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成15年度	平成24年度より学生募集停止			
機械システム工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成15年度	平成24年度より学生募集停止			
農学部						1.02		宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地	4年制学科 6年制学科		
植物生産環境科学科	4	50	—	200	学士（農学）	1.02	平成22年度				
森林緑地環境科学科	4	50	—	200	学士（農学）	1.02	平成22年度				
応用生物科学科	4	55	—	220	学士（農学）	1.01	平成22年度				
海洋生物環境学科	4	30	—	120	学士（農学）	1.03	平成22年度				
畜産草科学科	4	50	—	200	学士（農学）	1.01	平成22年度				
獣医学科	6	30	—	180	学士（獣医学）	1.04	平成22年度				
地域農業システム学科	4	—	—	—	学士（農学）	—	平成15年度			平成22年度より学生募集停止	
応用生物科学科	4	—	—	—	学士（農学）	—	平成15年度			平成22年度より学生募集停止	
獣医学科	6	—	—	—	学士（獣医学）	—	平成15年度			平成22年度より学生募集停止	

既設大学等の状況	大学院の名称	宮崎大学大学院							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	教育学研究科 (修士課程) 学校教育支援専攻 (専門職学位課程) 教職実践開発専攻	2 2	8 28	— —	16 56	修士(教育学) 教職修士(専門職)	0.93 1.03	平成20年度 平成20年度	宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地
	医科学看護学研究科 (修士課程) 医科学専攻 看護学専攻	2 2	— —	— —	— —	修士(医科学) 修士(看護学)	— —	平成15年度 平成17年度	宮崎県宮崎市清武町木原5200番地 平成26年度より学生募集停止 平成26年度より学生募集停止
	看護学研究科 (修士課程) 看護学専攻	2	10	—	20	修士(看護学)	1.00	平成26年度	宮崎県宮崎市清武町木原5200番地
	工学研究科 (修士課程) 応用物理学専攻 物質環境化学専攻 電気電子工学専攻 土木環境工学専攻 機械システム工学専攻 情報システム工学専攻	2 2 2 2 2 2	17 27 36 16 19 19	— — — — — —	34 54 72 32 38 38	修士(工学) 修士(工学) 修士(工学) 修士(工学) 修士(工学) 修士(工学)	1.08 0.99 1.06 0.87 1.05 0.83	平成19年度 平成19年度 平成19年度 平成19年度 平成19年度 平成19年度	宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地
	農学研究科 (修士課程) 農学専攻 生物生産科学専攻 応用生物科学専攻	2 2 2	68 — —	— — —	136 — —	修士(農学) 修士(水産学) 修士(学術) 修士(農学) 修士(学術)	0.93 — —	平成26年度 平成17年度 平成17年度	宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 平成26年度より学生募集停止 平成26年度より学生募集停止
	医学獣医学総合研究科 (修士課程) 医科学獣医科学専攻 (博士課程) 医学獣医学専攻	2 4	8 23	— —	16 92	修士(医学) 修士(動物医科学) 博士(医学) 博士(獣医学)	1.93 1.28	平成26年度 平成22年度	宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 宮崎県宮崎市清武町木原5200番地
	医学系研究科 (博士課程) 医学専攻 細胞・器官系専攻 生体制御系専攻 生体防衛機構系専攻 環境生態系専攻	4 4 4 4 4	— — — — —	— — — — —	— — — — —	博士(医学) 博士(医学) 博士(医学) 博士(医学) 博士(医学)	— — — — —	平成20年度 平成17年度 平成17年度 平成17年度 平成17年度	宮崎県宮崎市清武町木原5200番地 平成22年度より学生募集停止 平成20年度より学生募集停止 平成20年度より学生募集停止 平成20年度より学生募集停止 平成20年度より学生募集停止
	農学工学総合研究科 (博士後期課程) 資源環境科学専攻 生物機能応用科学専攻 物質・情報工学専攻	3 3 3	7 4 5	— — —	21 12 15	博士(農学) 博士(工学) 博士(学術) 博士(工学) 博士(学術)	1.04 1.00 1.00	平成19年度 平成19年度 平成19年度	宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地

附属施設の概要	<p>名称：産学・地域連携センター          目的等：産学・地域連携活動の拠点          所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地          設置年月：平成18年4月          規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 3,127㎡          ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	
	<p>名称：教育・学生支援センター          目的：大学教育に関わる企画事業と学生支援事業          所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地          設置年月：平成19年4月          規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス)          建物 138㎡(事務室の一部に設置のためフロア面積で記載)          ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	
	<p>名称：フロンティア科学実験総合センター          目的：先端的な生命科学研究推進と大学の広範囲な教育研究活動支援          所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地（生命科学研究部門）          宮崎県宮崎市清武町木原5200番地（実験支援部門）          設置年月：平成15年4月          規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 1,877㎡          224,316㎡(清武キャンパス) 建物 4,307㎡          ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	
	<p>名称：国際連携センター          目的：学術研究や教育の国際連携・協力事業支援          所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地          設置年月：平成18年4月          規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 819㎡          ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	
	<p>名称：産業動物防疫リサーチセンター          目的：産業動物の国際防疫及び診断・予防法の先端的の研究          所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地          設置年月：平成23年10月          規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス)          建物 1,816㎡（農学部内に設置のためフロア面積を記載）          ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	
	<p>名称：語学教育センター          目的等：実践的な語学力の向上、留学生に対する日本語教育          所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地          設置年月：平成25年7月1日          規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 —          ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	
	<p>名称：IR推進センター          目的：大学の目標・計画、運営方針の策定及び意思決定を支援          所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地          設置年月：平成25年10月          規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス)          建物 627㎡(事務室の一部に設置のためフロア面積で記載)          ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	
	<p>名称：教育文化学部附属教育協働開発センター          目的：学部、大学院及び地域社会における教育の発展充実に寄与          所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地          設置年月：平成25年10月          規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 534㎡          ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	
	<p>名称：医学部附属病院          診療科教：18診療科          病床数：632床（救急部・共通病床等を含む）          所在地：宮崎県宮崎市清武町木原5200番地          設置年月：昭和52年4月18日 開院年月：昭和52年10月31日          規模等：土地 224,316㎡(医学部全体の面積) 建物 63,993㎡</p>	

附属施設の概要	<p>名称：農学部附属フィールド科学教育研究センター          目的等：「自然との共生」及び「食と環境の調和」を追求する教育研究を行う          所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地（木花フィールド）          宮崎県宮崎市大字島之内10100-1（住吉フィールド）          宮崎県宮崎市田野町乙 11300（田野フィールド）          宮崎県延岡市赤水町 376-6（延岡フィールド）          設置年月：平成13年4月          規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 2,585㎡          ※土地の面積は、キャンパスの総面積          土地 502,040㎡(住吉フィールド) 建物 5,690㎡          土地 5,008,607㎡(田野フィールド) 建物 990㎡          土地 6,104㎡(延岡フィールド) 建物 1,049㎡</p>	
	<p>名称：農学部附属動物病院          目的等：動物診療（二次診療病院）、地域の獣医師の相談・研修の施設等          所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地          設置年月：昭和28年8月          規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 1,634㎡          ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	
	<p>名称：農学部附属農業博物館          目的等：農業に関する調査研究・実物標本、模型、文献等を収集・保管・展示          所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地          設置年月：平成10年4月          規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 766㎡</p>	
	<p>名称：教育文化学部附属小学校          目的：児童の教育及び小学校の教育研究・教育実習・教育振興          所在地：宮崎県宮崎市花殿町7番49号          設置年月：昭和26年4月          規模等：土地 39,980㎡(附属中学校の敷地を含む) 建物 7,192㎡</p>	
	<p>名称：教育文化学部附属中学校          目的：生徒の教育及び中学校の教育研究・教育実習・教育振興          所在地：宮崎県宮崎市花殿町7番67号          設置年月：昭和26年4月          規模等：土地 39,980㎡(附属小学校の敷地を含む) 建物 7,419㎡</p>	
	<p>名称：教育文化学部附属幼稚園          目的：幼児の保育及び幼稚園の教育研究・教育実習・教育振興          所在地：宮崎県宮崎市船塚1丁目1番地          設置年月：昭和42年6月          規模等：土地 21,797㎡ 建物 883㎡</p>	
	<p>名称：安全衛生保健センター          目的：学生及び職員の心身の健康の保持増進・全学的な安全衛生管理          所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地          設置年月：平成16年4月          規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) ㎡          建物 434㎡(事務室の一部に設置のためフロア面積で記載)          ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	
	<p>名称：情報統括機構          目的：情報基盤、情報システム等の運用管理・情報利用者支援          所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地          設置年月：平成22年10月          規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) ㎡ 建物 1,254㎡          ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	

# 国立大学法人宮崎大学 設置計画に関わる組織の移行表

平成27年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
宮崎大学				
教育文化学部	150	-	600	
学校教育課程	80	-	320	
人間社会課程	230	-	920	
計				
医学部	110	-	660	
医学科	3年次			
看護学科	60	10	260	
計	170	10	920	
工学部		3年次		
環境応用化学科	58		232	
社会環境システム工学科	53		212	
環境ロボティクス学科	49		196	
機械設計システム工学科	54	10 (共通)	216	
電子物理工学科	53		212	
電気システム工学科	49		196	
情報システム工学科	54		216	
計	370	10	1,500	
農学部				
植物生産環境科学科	50	-	200	
森林緑地環境科学科	50	-	200	
応用生物科学科	55	-	220	
海洋生物環境学科	30	-	120	
畜産草地球科学科	50	-	200	
獣医学科	30	-	180	
計	265	-	1,120	
宮崎大学				
地域資源創成学部	90	-	360	学部の設置 (意見伺い)
計	90	-	360	
教育学部	120	-	480	学部の名称変更 (事前伺い)
学校教育課程	120	-	480	人間社会課程は平成28年4月学生募集停止
計	240	-	960	
医学部	110	-	660	
医学科	3年次			
看護学科	60	10	260	
計	170	10	920	
工学部		3年次		
環境応用化学科	58		232	
社会環境システム工学科	53		212	
環境ロボティクス学科	49		196	
機械設計システム工学科	54	10 (共通)	216	
電子物理工学科	53		212	
電気システム工学科	49		196	
情報システム工学科	54		216	
計	370	10	1,500	
農学部				収容定員の変更
植物生産環境科学科	52	-	208	
森林緑地環境科学科	52	-	208	
応用生物科学科	57	-	228	
海洋生物環境学科	33	-	132	
畜産草地球科学科	61	-	244	
獣医学科	30	-	180	
計	285	-	1,200	

## 国立大学法人宮崎大学 設置計画に関わる組織の移行表

平成27年度	平成28年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>宮崎大学大学院</b>					
教育学研究科	教育学研究科	28	-	56	
教職実践開発専攻(P)	教職実践開発専攻(P)	8	-	16	
学校教育支援専攻(M)	学校教育支援専攻(M)	36	-	72	
計	計				
看護学研究科	看護学研究科	10	-	20	
看護学専攻(M)	看護学専攻(M)	10	-	20	
計	計				
工学研究科	工学研究科	134	-	268	研究科の改組（事前伺い）
応用物理学専攻(M)	工学専攻(M)	134	-	268	
物質環境化学専攻(M)	計				
電気電子工学専攻(M)					
土木環境工学専攻(M)					
機械システム工学専攻(M)					
情報システム工学専攻(M)					
計	計				
農学研究科	農学研究科	68	-	136	
農学専攻(M)	農学専攻(M)	68	-	136	
計	計				
医学獣医学総合研究科	医学獣医学総合研究科	8	-	16	
医科学獣医科学専攻(M)	医科学獣医科学専攻(M)	23	-	92	
医学獣医学専攻(D)	医学獣医学専攻(D)	31	-	108	
計	計				
農学工学総合研究科	農学工学総合研究科	7	-	21	
資源環境科学専攻(D)	資源環境科学専攻(D)	4	-	12	
生物機能応用科学専攻(D)	生物機能応用科学専攻(D)	5	-	15	
物質・情報工学専攻(D)	物質・情報工学専攻(D)	16	-	48	
計	計				



教 育 課 程 等 の 概 要															
(地域資源創成学部地域資源創成学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
導入科目	大学教育入門セミナー	1前	2			○			8	8	8			専任教員による分担 専任教員による分担 兼4 兼4 兼4 兼4 兼1 兼1 兼1 兼1 専任教員による共同 専任教員による共同 共同	
	情報・数量スキル	1前	2			○			8	8	8				
	外国語	英語a 1	1前	2			○								
	英語a 2	1後	2			○									
	英語b 1	1前	2			○									
	英語b 2	1後	2			○									
	コミュニケーション	ドイツ語	1前		2			○							
	フランス語	1前		2				○							
	中国語	1前		2				○							
	韓国語	1前		2				○							
	専門基礎	コミュニケーション概論	1前	2				○			1				
	数学基礎	数学基礎	1前	2				○	1	1	1				
	統計学基礎	統計学基礎	1後	2				○	2	1	1				
	社会調査法	社会調査法	2前	2				○			2				
小計(14科目)		—	20	8	0	—	—	8	8	8	0	0	兼8	—	
基礎教育科目	専門教育入門セミナー	1後	2			○			8	8	8			専任教員による分担 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼2 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
	環境と生命	2前	2			○									
	現代社会の課題	美術と文化	1後		2			○							
		音楽と人間	1後		2			○							
		暮らしを見つめる	1後		2			○							
		風土・地域と人間	1後		2			○							
		現代社会と歴史	1後		2			○							
		現代社会と子供・青年	1後		2			○							
		現代社会と経済	1後		2			○							
		大学と学生	1後		2			○							
		地域学入門 I	1後		2			○			1				
		「私」のキャリアとライフデザイン	1後		2			○							
		生物科学	1後		2			○							
		数学の考え方	1後		2			○							
自然科学の考え方		1後		2			○								
自然現象と工学	1後		2			○									
小計(16科目)		—	4	28	0	—	—	8	8	8	0	0	兼16	—	
学士力発展科目	魚・家畜・草の文化論	2前		2			○							兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
	文化・産業と教育	2前		2			○								
	保健医療社会学	2前		2			○								
	身のまわりの生活論	2前		2			○								
	教育と人間	2後		2			○								
	科学の社会学	2後		2			○								
	宮崎の郷土と文化	2後		2			○								
	統計学入門	2後		2			○								
	線形代数入門AEMN	2前		2			○								
	化学と社会との関わり	2前		2			○								
	音・光で考える物理学入門	2前		2			○								
	微分積分学	2前		2			○								
	情報とコンピュータ	2後		2			○								
	生命科学系	遺伝子操作入門	2前		2			○							
生命科学系	生命科学入門—分子から生体へ—	2前		2			○								
生命科学系	感覚と神経	2前		2			○								
生命科学系	光と植物	2後		2			○								

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(地域資源創成学部地域資源創成学科)																			
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手						
基礎教育科目	学士力発展科目	学際・生涯学習系	日本の自然と災害	2前・後		2		○										兼1	
		生涯学習論	2前		2		○											兼1	
		異文化交流体験学習	1前・後		2		○											兼1	
		中国文化短期研修	1前・後		2		○											兼1	
		中華文化理解と交流	2後		2		○											兼1	
		国際協力入門ー世界を舞台に活躍するー	2後		2		○											兼1	
		ヘルスサイエンス	2後		2		○											兼1	
		フィールド体験講座	2前		2		○											兼1	
		博物館概論	2前		2		○												兼2
		地域キャリアデザイン	1前		2		○												兼1
		ボランティアー地域のリーダーを育てるー	2通		2			○											兼1
		地域学入門Ⅱ	2前		2			○											兼1
		地域インターンシップ	2後		2				○										兼1
		現代社会を読み解く	2後		2				○										兼1
		外国語系	ビジネス英語Ⅰー1	2前	2				○										兼4
		ビジネス英語Ⅰー2	2後	2					○										兼4
		総合ドイツ語Ⅰ	1後		2				○										兼1
総合フランス語Ⅰ	1後		2				○										兼1		
総合中国語Ⅰ	1後		2				○										兼1		
総合韓国語Ⅰ	1後		2				○										兼1		
小計 (37科目)			—	4	70			—		0	0	0	0	0	0		兼34		
専門英語	ビジネス英語	ビジネス英語Ⅱー1	3前		2			○											
		ビジネス英語Ⅱー2	3後		2			○											
		特別英語Ⅰ	2後			2		○											
		特別英語Ⅱ	3前			2		○											
		小計 (4科目)			—	4	0			—		0	0	2	0	0	0		—
専門科目	マネジメントコア科目群	地域資源と地域振興	1前		2			○											
		経営学概論	1後		2			○											
		マーケティング論Ⅰ	2前		2			○											
		会計学Ⅰ	2前		2			○			1								
		プロジェクトマネジメント	2前		2			○			4	2	2					オムニバス	
		地域社会学概論	1前		2			○					1						
		簿記論	1前			2			○			1							
		法学入門	1前			2			○				1	1				オムニバス	
		地域経済学	2前		2				○			1							
		マクロ経済学	2前			2			○										兼1
		ミクロ経済学	2前			2			○				1						
		小計 (11科目)			—	14	8	0		—		6	5←4	5	0	0		兼1	—
		コア科目群	コースコア科目群	地域産業創出概論	1後		2			○			3	2	4				
地域創造概論	1後				2			○			4	3	3					オムニバス	
企業マネジメント概論	1後				2			○				2	3	1				オムニバス	
地域理解実習	1前				1				○			8	8	8				専任教員による分担	
地域探索実習Ⅰ	1後				1				○			8	8	8				専任教員による分担	
地域探索実習Ⅱ	2前				1				○			8	8	8				専任教員による分担	
小計 (6科目)			—	9	0	0		—		8	8	8	0	0	0		—		

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(地域資源創成学部地域資源創成学科)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門発展科目	マネジメントアドバンスト科目群	組織論Ⅰ	2後	2			○			1								
		経営戦略論Ⅰ	2後	2			○				1							
		マーケティング論Ⅱ	2後	2			○					1						
		企業家精神とイノベーション	2後	2			○			4	2	1					オムニバス	
		地域経営論	3前	2			○				1							
		地域活性化システム論	3後	2			○			1								
		交流マネジメント論	3後	2			○			1								
		経済政策	3後		2			○			1							
		財政学	3前		2			○			1							
		金融論	3前		2			○			1							
		世界経済論	3後		2			○									兼1	
		日本経済論	3後		2			○				1						
		ウェブデザイン	4前		2			○				1						
		コンテンツプロデュース	3前		2			○					1					
		デザインマーケティング	2後		2			○				1						
		広告メディア・コミュニケーション	3前		2			○					1					
		地域社会と内発的発展	4前		2			○					1					
		異文化理解と国際協力	3前		2			○					2				オムニバス	
		国内インターンシップ	3通		2				○		1							
		海外短期研修	3通		2				○				2					
小計(20科目)		—	14	26	0		—		6	3	5	0	0	兼1	—			
専門発展科目	コースアドバンスト科目群	地域産業創出コース科目	生物学総論	2後			○					1						
			作物栽培学	3前			○					1						
			家畜生産学	3前		2			○		1							
			栽培・家畜生産・食品製造実習	3後		2			○		1		2					オムニバス
			農業技術・経営学	4前		2			○		1		1					兼3
			食料・農業経済学	3後		2			○			1						オムニバス
			国際農業論	4前		2			○				1					
			食品学総論	2後		2			○					1				
			フードビジネスⅠ	3前		2			○					1				
			フードビジネスⅡ	3後		2			○				2	3				オムニバス
			フードコンシャスネス論	2後		2			○									兼1
			宮崎食文化論	3後		2			○									兼1
			風景と景観論	2後		2			○			1						
			観光と地域振興	3前		2			○			3						オムニバス
			照葉樹林保全活用論	3後		2			○					1				兼3
			デザインプランニング	2後		2			○				1					
			地域商品プロデュース	3前		2			○				1					
			地域創成コンテンツ開発	3後		2			○					1				
			地域産業創出実践Ⅰ	2後		2				○		3	2	3				
			地域産業創出実践Ⅱ	3前		2				○		3	2	3				
地域産業創出実践Ⅲ	3後		2				○		3	2	3							
小計(21科目)		—	12	30	0		—		4	2	5	0	0	兼7	—			

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(地域資源創成学部地域資源創成学科)																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手					
地域 創造 コース 科目	循環型社会形成論	3前		2		○				1								
	地域・防災まちづくり	3前		2		○			1									
	都市計画学	2後	2			○			1									
	コミュニティ交通計画	3後		2		○			1									
	まちなか再生論	3後		2		○			1									
	農山村社会学	3後		2		○					1							
	廃棄物と資源リサイクル	4前		2		○				1							兼5	
	地域資源と再生可能エネルギー	4前		2		○				1							兼5	
	公共ストックマネジメント	4前		2		○			5									
	行政学	2後		2		○												
	行政法	3前		2		○						1						兼1
	コミュニティ政策論	3後		2		○				1								
	地域産業政策論	3前	2			○				1								
	自治体政策論	3前	2			○				1								
	自治体財政論	3後		2		○				1								
	労働法	3後		2		○					1							
	社会保障法	4前		2		○					1							
	ジェンダーと法	4前		2		○					1							
	財産法	2後		2		○					1							
	地域創造実践Ⅰ	2後	2					○		3	3	3						
	地域創造実践Ⅱ	3前	2					○		3	3	3						
	地域創造実践Ⅲ	3後	2					○		3	3	3						
小計 (22科目)		—	12	32	0	—	—	—	6	3	3	0	0	兼11	—			
企業 マネジ メント コース 科目	会計学Ⅱ	2後	2			○			1									
	組織論Ⅱ	3前	2			○			1									
	経営戦略論Ⅱ	3前	2			○				1								
	企業経営分析	3後		2		○			2	1	1						オムニバス	
	マーケティング論Ⅲ	3前		2		○					1							
	ベンチャービジネス論	3後		2		○				1								
	ビジネスプランニング	3後		2		○			2	2	2						オムニバス	
	多国籍企業論	4前		2		○											兼1	
	技術経営論	3前		2		○				1								
	地域産官学マネジメント論	4前		2		○				1								
	ICTと地域産業	3後		2		○				1							兼2	
	次世代技術と産業	4前		2		○			1								兼3	
	コミュニティビジネス論	2後		2		○				1								
	企業マネジメント実践Ⅰ	2後	2					○		2	3	2						
	企業マネジメント実践Ⅱ	3前	2					○		2	3	2						
企業マネジメント実践Ⅲ	3後	2					○		2	3	2							
小計 (16科目)		—	12	20	0	—	—	—	3	3	3	0	0	兼6	—			
卒業研究	卒業研究	4通	6					○	8	8	8							
	小計 (1科目)	—	6	0	0	—	—	—	8	8	8	0	0	0	—			
合計 (168科目)		—	111	222	0	—	—	—	8	8	8	0	0	兼64	—			

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(地域資源創成学部地域資源創成学科)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
学位又は称号	学士(地域資源創成学)		学位又は学科の分野			学際領域											
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
1. 基礎教育科目 36単位 (1) 導入科目 22単位 [必修] 大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、英語a1、英語a2、英語b1、英語b2 コミュニケーション概論、数学基礎、統計学基礎、社会調査法 (2) 課題発見科目 6単位 [必修] 専門教育入門セミナー、環境と生命 (3) 学士力発展科目 8単位 [必修] ビジネス英語Ⅰ-1・2  2. 専門科目 27単位 (1) マネジメントコア科目群 18単位 [必修] 地域資源と地域振興、地域社会学概論、経営学概論、マーケティング論Ⅰ、会計学Ⅰ、 プロジェクトマネジメント、地域経済学 (2) コースコア科目群 9単位 全科目必修  3. 専門発展科目 56単位 (1) マネジメントアドバンスト科目群 24単位 [必修] 組織論Ⅰ、経営戦略論Ⅰ、マーケティング論Ⅱ、企業家精神とイノベーション、 地域経営論、地域活性化システム論、交流マネジメント論 [選択必修] 国内インターンシップ 又は 海外短期研修 (2) コースアドバンスト科目群 32単位 以下3コースから、いずれかのコースを選択。 ※講義科目26単位のうち、18単位以上をメインのコースから取得することを条件に、 他コースの科目も履修可能。 1) 地域産業創出コース [必修] 食品学総論、風景と景観論、デザインプランニング 地域産業創出実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 2) 地域創造コース [必修] 都市計画学、地域産業政策論、自治体政策論、 地域創造実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 3) 企業マネジメントコース [必修] 会計学Ⅱ、組織論Ⅱ、経営戦略論Ⅱ、 企業マネジメント実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ  4. 専門英語 4単位 [必修] ビジネス英語Ⅱ-1・2  5. 卒業研究 6単位  履修登録上限単位数 24単位 (半期あたり)						1学年の学期区分		2学期		1学期の授業期間		15週		1時限の授業時間		90分	
総単位数 129単位																	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域資源創成学部地域資源創成学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 教育 科目	導 入 科 目	(大学教育入門セミナー) 大学教育入門セミナー	<p>【授業のねらい】 本科目は、学生が大学での生活と主体的な学習活動を始めるに当たっての基礎的知識・技能を修得し、学科の教育内容や将来に向けてのキャリア形成について理解するとともに、大学教育の基礎となるライティング等の知識・スキルを協同学習などのアクティブラーニングによって学ぶ。</p> <p>【授業概要】 この科目は以下の内容で構成する。 ○学科紹介、学生自己紹介、施設案内、図書館情報検索ガイダンス、キャリア形成の指導 ○文章及びデータ読解と課題発見 ○協同学習による解決策の構築とプレゼンテーション ○パラグラフ・ライティングの基本的技能の指導とレポート作成 ○協同学習によるレポートのリバイス</p> <p>(クラス担任2名(1名主担任、1名副担任)が担当(1クラス約30名)。担任は、毎年学部内の教員がローテーションしながら務める。)</p>	専任教員による 分担
		(情報・数量スキル) 情報・数量スキル	<p>【授業のねらい】 多様な情報を収集・分析して適切に判断し、それらを情報倫理に則り活用できる技能(情報リテラシー)と、数量で示された事象を表やグラフで適切に表現し、初歩的な統計量の意味を理解できる技能(数量スキル)を修得する。</p> <p>【授業概要】 コンピュータの基本事項や情報の概念を理解し、ネットワークの利用、ソフトウェア(ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等)の活用、情報セキュリティ・情報倫理などについて学ぶ。さらに、ICTを用いて、多様な地域課題に関する情報(宮崎県の環境に関する情報)を収集・分析して適切に判断し、それらを情報倫理に則って効果的に活用できる技能(情報リテラシー)と、数量で示された事象を表やグラフで適切に表現し初歩的な統計判断を行うことができる技能(数量スキル)を修得する。</p> <p>(クラス担任2名(1名主担任、1名副担任)が担当(1クラス約30名)。担任は、毎年学部内の教員がローテーションしながら務める。)</p>	専任教員による 分担
		(英語) 英語a1	<p>文法基礎の徹底と長文読解のスキルを身につける。 断片的に単語を並べただけでのコミュニケーションを克服し、基本的な文法・構文を身につけた上でのコミュニケーションが可能になるように、大学での学修に必要なレベルの文法・構文を徹底的に学修する。また、英語の文章を読むことに慣れるため、多読の練習及び長文読解の訓練をしながら、使いこなせるボキャブラリーとフレーズを増やすことを目標とする。</p>	
		(英語) 英語a2	<p>本科目では、TOEICスコアを基準として、クラス分け(Advanced classとBasic class)を行い、Communication英語を中心に講義を行う。</p> <p>【Advanced class】 英語Nativeによる授業。CEFRレベルB1-B2(英検2級～準1級程度):身近な話題だけでなく、より幅広い話題について会話ができ、自分の意見をより明確に表現できる。</p> <p>【Basic class】 英語Nativeによる授業。CEFRレベルB1(英検2級程度):身近な話題についてなら英語でコミュニケーションがとれる。自分の意見や理由を簡単に説明できる。</p>	
		(英語) 英語b1	<p>TOEICの解き方のテクニックを習得する。①リスニング強化をし、特にpart 1とpart 2の回答率をあげる。②基礎文法を強化し、part 5とpart 6の回答率をあげることを目標とする。 また、E-learningを使って、リスニング強化を自主学習のなかでも図る。 TOEIC目標スコア: 480～550</p>	
		(英語) 英語b2	<p>本科目では、TOEICスコアを基準として、クラス分け(Advanced classとBasic class)を行い、TOEICの解き方のテクニックを習得する。特にリスニングはpart 3、part4の強化、またリーディングは、part 7の強化をする。実際にTOEIC受験を全員が経験していることが前提になるので、そのスコアをもとに、苦手部分を把握し傾向と対策をたてる。E-learningを使って自主学習のなかで克服する。 TOEIC目標スコア 【Advanced class】600 【Basic class】530</p>	
		(初修外国語) ドイツ語	<p>ドイツ語の文法の基礎を身につけ、辞書を用いて基礎的な文章が読めること、また簡単な日常会話ができること、そしてドイツ語圏(ドイツ・オーストリア・スイス)の文化を知ること。この科目では、ディプロマポリシーに掲げる、多文化・異文化に関する知識の理解、及びコミュニケーション・スキルに関する能力を養う。</p>	
		(初修外国語) フランス語	<p>フランス語の初級レベルの文法とコミュニケーションを学ぶ。英語とは別の発想や視点といったものを学ぶことで、言語と文化という大問題を少しでも考える契機とし、フランス語とはどのような言葉で、どのような特色があるかを理解し、簡単なコミュニケーションができるようにする。</p>	
		(初修外国語) 中国語	<p>本科目は、中国語と出会い、その初歩を習得するとともに、中国語を話す人々の文化に触れて、より深く異文化を理解しようとする興味・関心を喚起することを目標とする。</p>	
		(初修外国語) 韓国語	<p>本科目は、韓国語の基礎的な語学力を身につけることを目的とする授業である。文字(ハングル)の理解や発音から始め、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく指導し、学習を続けていけるような基本的な語学力を総合的に身につけることを目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域資源創成学部地域資源創成学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目 導入科目	(専門基礎) コミュニケーション概論	<p>【授業のねらい】</p> <p>インターンシップや就職(活動)を文脈とした、社会人基礎力育成の一環としてのコミュニケーションスキルを身につける。実践的に学ぶが、ただ単にマニュアルを覚えるのではなく、人間のコミュニケーションのメカニズムを理解することで、なぜ社会において人はある一定の行動を取るのか考え、理解し、行動に移すことで、インターン先や就職先などの現場で使えるコミュニケーション力を習得する。</p> <p>【授業概要】</p> <p>講義では、「会話分析」や「エスノメソロジー」の手法を使って、人が社会でどのようにスムーズにコミュニケーションをとっているのか、人が日常生活で行っている「会話」の秩序を解明し、実社会で不可欠な対人基礎力を理論と実践を通して養成する。日本、海外を問わず、人は社会で相手のことや(先生なのか後輩なのか、もしくは日本人なのか、外国人なのか)、今いる場所(授業中なのか飲み会なのか、もしくは日本の大学なのか海外の大学なのか)や、文脈(聞き手として黙っているべきなのか・質問に答えるべきなのか)を言語のみならず、身体行動(視線や身体の動き)を見て総合判断し、会話をデザインする。社会人として求められる、その場その場の空気を読む「分析力」、判断し柔軟に対応できる「行動力」など、社会的コミュニケーションコンピテンスを養う。</p>	
	(専門基礎) 数学基礎	<p>【授業のねらい】</p> <p>社会的・経済的事象の解析の基礎となる、行列、微分、積分に関する基礎知識を習得する。</p> <p>【授業概要】</p> <p>この授業では、数学的解析を行う上で最低限必要となる、逆行列を使った連立線形方程式の解法、微分・積分学の基本を学ぶ。なお、理論一辺倒にならないように演習を交えて実施する。また、宿題として練習問題を与えて大学ノートで提出させ、副担当教員が習熟度を確認しながら実施する。</p> <p>(◎ 近藤友大/15回・③ 撫年浩/5回・12 戸敷浩介/5回) (共同)</p> <p>主担当教員が全15コマの授業を実施する。副担当教員は、演習の講義の際に、受講生のノートをチェックし、習熟度を確認、指導を行う。</p>	専任教員による共同
	(専門基礎) 統計学基礎	<p>【授業のねらい】</p> <p>基本的な確率概念や統計的推測の概念を理解し、社会的、経済的データや事象について推測や検定が可能になることを目標とする。</p> <p>【授業概要】</p> <p>確率や統計は身近な生活、社会的・経済的事象で利用できる数学的な方法である。この授業では、データの収集から解析までを行う上で最低限必要となる確率概念や統計的推論のための基本的方法を学ぶ。なお、理論一辺倒にならないように適宜、具体的なデータを用いて演習を交えて実施する。また、宿題として練習問題を与えて大学ノートで提出させ、習熟度を確認しながら実施する。</p> <p>(③ 撫年浩/15回・① 出口近士/5回・⑥ 西和盛/5回・⑨ 近藤友大/5回) (共同)</p> <p>主担当教員が全15コマの授業を実施する。副担当教員は、演習の講義の際に、受講生のノートをチェックし、習熟度を確認、指導を行う。</p>	専任教員による共同
	(専門基礎) 社会調査法	<p>【授業のねらい】</p> <p>人々の意識や社会の実態を把握するための社会調査を実践することができるように、実際に調査を行うための技能と知識の基礎を習得することを目的とする。また、実際の調査活動や調査される側の立場を体験することを通じて、目に見えにくい社会の実態や人々の意識を明らかにすることの楽しさと難しさの両面を体験することを目的とする。</p> <p>【授業概要】</p> <p>講義では、社会調査の企画・設計から実施までのプロセスとデータ収集、集計、報告書作成、調査結果のフィードバックまで、社会調査の実際を具体的に体験する。講義形式で社会調査の基礎や質的調査法、事例調査法、量的調査法のそれぞれについて具体的手法を教授する。また、実際に、調査計画書、調査票、調査結果報告書作成するために考える時間も設ける。各学生が実際に調査者として行う作業を自ら考え、主体的に行うことを必要とする。(同じ課題に取り組み5~7名から構成されるグループを形成するが、調査者として行う各作業は、各自が独自に行う。また、受講生は被調査者として、調査される側も体験する。</p> <p>(19 井上 果子/12回)</p> <p>①ガイダンス(授業内容説明、導入:調査目的及び調査倫理)、②問題意識の形成、調査問題の決定(グループ分け)、③仮説構成、調査方法(量的・質的調査)、④調査範囲・調査対象の決定、⑤調査票・調査項目の作成、⑥実施方法、調査準備、社会調査実施計画作成(計画書提出)、⑧事例調査、⑨予備調査、調査票修正(調査票提出)、⑩量的調査2:調査結果の入力・処理、⑪調査結果の整理、⑫結果分析、仮説の検証、⑬報告書作成</p> <p>(19 井上 果子・⑩ 芦田裕介/3回) (共同)</p> <p>⑦質的調査:調査の実施(インタビュー調査)⑩量的調査1:調査の実施(調査票を用いた調査)、⑮社会調査結果のフィードバック(報告書提出)</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(地域資源創成学部地域資源創成学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 教育 科目	課題 発見 科目	<p>【授業のねらい】 本科目は、学部の専門分野で主体的な学習活動を開始するに当たっての基礎的知識・技能を修得すること、専門的学問分野で解決すべき課題を発見し、それを解決するための手法を学ぶことを目的とする。また、学科の教育内容や将来に向けてのキャリア形成について理解すること、専門分野に係る倫理的配慮について基礎的知識を身につけることを、協同学習、口頭発表、ライティングなどのアクティブラーニングによって学ぶ。</p> <p>【授業概要】 この科目は以下の内容で構成する。 ○学部専門分野に係るキャリア形成及び倫理的問題についての講義 ○専門分野に係る現代的問題についての講義、グループ学習等による課題発見 ○資料収集、論文や記事の読解、分析等 ○協同学習による解決策の構築とプレゼンテーション ○レポート作成</p> <p>(クラス担任2名(1名主担任、1名副担任)が担当(1クラス約30名)。担任は、毎年学部内の教員がローテーションしながら務める。)</p>	専任教員による 分担	
		(環境と生命) 環境と生命	<p>本科目は、本学の理念・目的に記載されている「生命科学」と「環境保全」の教育・研究を実現するための基礎科目である。生命現象への理解を深めると共に、環境と生命の関係を科学的、論理的に考察し、生命にとって必要な環境、人間にとって必要な環境を理解し、環境問題の原因と本質を系統的に探ることを目的とする科目である。生命に関する理解を深めると共に、環境と生命の関係を科学的、論理的に考察し、生命にとって必要な環境、人間にとって必要な環境を理解し、環境問題の原因と本質を系統的に探る。さらに、環境破壊を防止するためには、何をしなければならぬのかを考へる。</p> <p>講義では、少人数のクラス編成によるグループ学習などを一部取り入れ、多面的に物事を考える能力の基礎を身につけることを特に重視し、専門教育への礎とする。</p>	
		(現代社会の課題) 美術と文化	<p>本科目は、美術を通して芸術文化への理解を深めることを目的とする。よく知られた美術作品について、単なる印象の記述ではなく、適切な知識にもとづいた解説ができるようにする。貴重な文化財としての美術作品を保存・継承していく意義を理解する。</p> <p>講義では、主にヨーロッパ美術を中心に、よく知られた美術作品を例として採りあげながら、単なる好き・嫌いに終わらず、それらの価値を経験するために必要な知識や分析及び解釈方法を習得し、美術作品とその基盤となった文化についての理解を深める。</p>	
		(現代社会の課題) 音楽と人間	<p>日本各地で演奏され愛好され続ける、ベートーヴェン作曲「交響曲第9番・合唱付き」。その第4楽章“歓喜の歌”に取り組むことを通して、「人はなぜ歌うのか」という根源的問いを見つめるとともに、西洋音楽がどのように人間と関わりを 持ちながら歴史を築いてきたかを、多角的視点から探る。</p>	
		(現代社会の課題) 暮らしを見つめる	<p>持続可能な社会を実現するために、私たちの生命を繋ぐ暮らしを「食」と「性」に関する諸問題を中心にグループディスカッション、プレゼンテーションを取入れて考察する。「食」や「性」についての今日的課題について理解し、自分の暮らしを見つめる視点を持つことを身につける。</p>	
		(現代社会の課題) 風土・地域と人間	<p>宮崎県の地域的な特徴を理解させる他、いろいろな地域の構造とその形成過程にみられる特徴、地域による違いを理解、認識させる。</p> <p>講義では、人間社会を取り巻く総体としての地域の諸相について、宮崎県他の具体的事例を取り上げて、文化や産業など多面的に解説することで、各地の多様な地域の構造に関する理解を深めさせる。</p>	
		(現代社会の課題) 現代社会と歴史	<p>ヨーロッパでは現在、国民国家の枠組みを越える動きが目まぐるしい。他方、「文明開化」以来のわが国では、政治家や知識人、そして歴史家が、このヨーロッパに強いまなざしを投げかけてきた。本講義では、ヨーロッパ列強による世界の一体化の動きを理解した上で、わが国からのヨーロッパや世界に対するまなざしの変遷を追い、さらに新たな歴史学の動向に迫る。</p>	
		(現代社会の課題) 現代社会と子供・青年	<p>その現象の根底に潜む子供と青年にかかわる根本的な問いかけ、生き方の原理、社会史的心性、などを基本資料を読み進めて明らかにしてゆく。自己をとりまく世界(親密な生活世界もふくむ)をどのように捉えるか、現代社会についての知識・理解をふまえて、その世界のなかでどのように公共性(社会性)の感覚をもって生きてゆけばよいか、という根本的問いかけとその解決への努力(問題解決能力)を求める。そうした探究を、青年でもある受講生自身に促すことをねらいとする。</p>	
		(現代社会の課題) 現代社会と経済	<p>本科目の目的は、どんな専門分野を学んで社会にでようとも、必ず遭遇する経済活動の諸問題、これを理解できる教養を身につけることである。しかしながら、そんな教養を単に覚えるも力にはならない。</p> <p>講義では、この必要不可欠の教養を、実社会に出て、現代社会の一員になり、社会や地域の担い手として生きることの展望につながるように経済現象を理解し、それを支える意欲・知的関心を涵養することを目指す。</p>	
		(現代社会の課題) 大学と学生	<p>本科目は、大学の制度及び大学生の生活や意識について歴史と国際比較の観点から総合的に学習し、大学生が在学中に身につけるべき知識や技能とは何か、卒業後そうした知識や技能をどのように活用していくべきかについてトータルな見解を形成することを目的とする。</p> <p>講義では、様々な教材とグループディスカッションやプレゼンテーションなどの学習体験を通して、学生個人が抱く大学観、大学生観を多角的に見つめ直す機会を提供し、社会に実際に存在する課題について多角的に考え、その複雑さを深く理解し、それに対して自分の立場や解決のためのアプローチを見つけるスキルを身につける。</p>	
(現代社会の課題) 地域学入門 I	<p>本科目では、地域を調査するための手法の一つである、インタビューの技法について学ぶ。前半の講義で、インタビューの基本について学習し、その後、学内の教職員を対象に実際にインタビューを行う。インタビュー実習では、所属学部・学科以外の学生とチームを組んで進める。こうした作業を通して、地域社会で必要とされるコミュニケーション能力やチームワークなどを習得していく。</p>			



授 業 科 目 の 概 要			
(地域資源創成学部地域資源創成学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
課題発見科目	(現代社会の課題) 「私」のキャリアとライフデザイン	本科目は、大学卒業後のキャリアをイメージしながら主体的に学びを深める力、性別役割分担意識にとらわれず、キャリアを形成する視点を身につける。 講義では、ジェンダーや男女共同参画の概念を踏まえながら、現在の社会環境や仕事・家族のあり方について考える。学生が個々のキャリアやライフプランのあり方について具体的にイメージする機会をアクティブラーニングの手法を適宜導入しながら提供する。グループ討議・各学生によるプレゼンテーションなどによる主体的な学習を促進することで、参加する学生同士のコミュニケーションを通じた気付きや情報共有を目指す。	
	(現代社会の課題) 生物科学	生物の進化、特に特異な進化を遂げた鯨類について取り上げ、遺伝学、形態学、生態学といった生物学の基礎的な内容についての知識を深めると共に、生物としての鯨類を知る。さらに、鯨類を取り巻く社会的な問題について、グループワーク等を通して学修し、ひいては人と動物(野生生物・家畜・ペット)との関係性について考えを深める。	
	(現代社会の課題) 数学の考え方	数学に関わるいろいろな問題に触れることによって、これまで人類が築き上げてきた数学の考え方の良さや面白さを感じながら、数学に関する知識、数量的なスキル、論理的な思考力を身にねらいとする。そのために、受講生は、教科書の中から指定した問題について各自回答し、レポートとして提出する。	
	(現代社会の課題) 自然科学の考え方	これまでの人類の歴史の中で自然科学が明らかになってきた、人を取り巻く自然の仕組みを正しく理解し、科学と技術が持つ可能性あるいは意味とを多様な面から判断する能力を育てること、自然の仕組みへの理解を深めることで、現代社会が抱える諸課題を把握することを目指す。	
	(現代社会の課題) 自然現象と工学	本科目は、①自然現象に対する工学的なアプローチ、特に計測・制御について概略の説明、②エネルギーの利用方法について、自然現象と関連付けて概略の説明ができるようになることとする。 講義では、自然現象の計測法1、自然現象の制御のための基礎理論を、講義・実験等を通して学び、講義の後半では、テーマ別にグループディスカッションを行い、理解を深める。	
基礎教育科目 学士力発展科目（文化・社会系）	魚・家畜・草の文化論	本科目は、「食料」及び「飼料」の文化的側面についての理解を深めることを目的とする。 魚や家畜は食料として、草はこれら動物の飼料として、人間の生存に不可欠であるだけでなく、自然条件や風土との関わりを通して人間の文化にも果たしてきた重要な役割について講義し、草と家畜と人、魚と人、日本と世界との関わりについて、過去－現在－未来を展望する。	
	産業と教育	本科目は、現代の教育問題に対して多角的な視点を持つこと、及び現代の産業社会の成り立ちについて人材の観点から理解できること、を目的とする。 講義では、わが国の組織・労働・教育の問題について、人材育成を軸にしながら総合的に学習する。	
	保健医療社会学	医療や保健の質が問われる現代社会において、家族の病歴やあなた自身の健康増進を始め、社会全体に関わる医療制度や医療費の問題などから目を背けることはできません。本講義では、こうした保健と医療の現代的課題を「社会学」の視点から考えて行こうと思います。	
	身のまわりの生活論	身の回りの様々な生活空間における人間の感性について、音楽、ファッション、環境、現代の情報化などの角度から、それぞれ分かりやすく解説し、人間の知的・感性及び社会の構成についての学び、現代社会を理解する上で必要な幅広い知識と深い洞察力を養育することを主なねらいとする。	
	教育と人間	本講義は、子どもと読書、子どもと遊びなどをテーマにとりあげ、学校教育以外での子育て・子育てを支援する活動から、子どもとおとなの関係が再生する条件を探究する。学外で行う造形工作教室といった教育フィールド体験を通して、教育と人間の在り様を探究する。	
	科学の社会学	「科学」を広く社会現象と捉え、特に科学者の社会的役割と科学の研究組織の成立と発展を歴史的な視点から講義し、(1)科学活動と社会との相互関係の理解、(2)キリスト教と学問との関係の歴史的な理解、(3)学者の果たしてきた歴史的役割の理解、(4)産学連携の現状と問題点の理解、を図ることを目的とする。	
	宮崎の郷土と文化	産業界・地域・大学・行政機関の枠を超えて、宮崎県知事を初めとする県内の著名人を招き、宮崎の農業や食文化、宮崎牛、防災、観光、民話など、幅広いテーマで、「宮崎の郷土と文化」について学ぶ。視野の拡大や知識の進化、学習意欲の向上をねらいとする。	
学士力発展科目（科学・技術系）	統計学入門	記述統計から始めて、具体的な推定・検定に至るまで統計学の入門を講義する。統計の基本概念を理解し、具体的な推定・検定が行えるようになることを目的とする。	
	線形代数入門AEMN	ベクトル、行列、行列式、クラメル公式、固有値・固有ベクトルなどを概説し、線形代数の入門を学ぶ。	
	化学と社会との関わり	めまぐるしく変化する社会や経済状況において、人類が直面している環境問題や科学技術の高度化問題に着目して、化学的立場からその重要性について講義する。	
	音・光で考える物理学入門	身の回りで見られる自然現象の中から、音や光・色に関係した具体的な実例を取り上げ、『なぜ?』という疑問に対して基本的な原理から考察することを通して、自然科学の考え方を分かりやすく解説する。	
	微分積分学	数学の基礎として微分・積分に関する基本的な理論を講義するとともに、他の科目にも必要な偏微分・重積分や簡単な微分方程式についても学ぶ。	
	情報とコンピュータ	現代の社会は、コンピュータやネットワークが社会インフラとして認識されてきており、もはや情報通信技術なしには成り立たない。しかし、この分野は技術の進展が速く、最近の話題まで短時間で理解することはなかなか難しいものがあるため、この講義では情報科学やコンピュータに関する様々なトピックスについてオムニバス形式で紹介し、情報技術やコンピュータに関する基本的な考え方について理解することを目的とする。	

様式第2号（その3）

授 業 科 目 の 概 要			
(地域資源創成学部地域資源創成学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学士力発展科目 (生命科学系)	遺伝子操作入門	遺伝子組換え食品、遺伝子治療、iPS細胞を用いた再生医療など、遺伝子及び生体において、遺伝子が機能するメカニズムの基本を習得し、さらに各種の分野で実際に行なわれている遺伝子関連研究や遺伝子関連技術を理解する。	
	生命科学入門 —分子から生体へ—	生命現象を理解するために、“細胞のしくみ”とそれを構成する“遺伝子やタンパク質の役割”、さらにはそれらが私たちの体でどのように働くのかについて、生命科学の基礎を学ぶ。	
	感覚と神経	神経系の基本的事項について、特に感覚神経と脳機能を中心に学習する。また、運動神経の仕組みを通して、感覚情報がどのような経路を経て行動につながるのか、その概略についても理解を深める。	
	光と植物	植物が光という環境情報をどのように感知し、どのように反応し、どのように利用しているのか例を示しながら解説し、さらに光の感知機構とそれが明らかにされた過程をたどることで自然科学の考え方を学ぶ。	
学士力発展科目 (学際・生涯学習系)	日本の自然と災害	日本列島の自然環境を踏まえながら、地震災害と津波災害を中心に講義する。とくに、最近注目されている陸上の活断層の引き起こす直下型地震及び海溝型地震である東南海・南海地震については、それらの発生メカニズム、長期予測研究、防災対策の現状等について詳細に解説する。	
	生涯学習論	生涯学習の概念・意義・現状などについての理解を深めるために、基本的な事項についての講義を行うとともに、生涯学習とは何かを理解し、生涯学習をより身近なものと感じ、自らが生涯学習者・生涯学習の支援者となっていくようとする意欲を喚起させる。	
	異文化交流体験学習	宮崎大学では、大学間学術交流協定を締結している韓国・順天大学校との間で、1週間程度の学生相互交流事業を行う。この事業は、宮崎大学の学生と順天大学校の学生がお互いの大学を訪問し、それぞれの国の文化や歴史を学び、交流を深めることを目的とし、韓国滞在中は、順天大学校で韓国の文化やハンガルの授業を受講する。	
	中国文化短期研修	宮崎大学と「学生交流覚書」を締結している台湾・東呉大学において、台湾文化・中国文化への理解を深め、生の中国語にも触れて、参加学生にとっては日台交流の出発点となるようにする。事前準備では、教員からの指示に基づいて各自が関心を持ったことを調べ、必要に応じてグループで発表できるようにする。また、現地での研修後は、その成果を報告書にまとめたり、報告会を行う。	
	中華文化理解と交流	本科目は、文化の多様性を認識し、国際交流の場における社会的貢献を実践しようという能力を養うことを目的とする。 講義では、中国文化に関する基礎的知識(歴史・言語・文学等)を学び、現在の日本あるいは自分と中国文化との関わりについて考察する力を身につける。また、中国語を使って日本について発表、あるいは日本語をもちいて日本語学習者に日本を紹介するなどの活動を行い、さらには、学内において、中国語会話練習会などを通して、本学に留学中の中国人・台湾人学生と交流を深める。	
	国際協力入門 —世界を舞台に活躍する—	本学では、国際学術・教育連携の推進やJICA等との連携による開発途上国や新興国の教育、保健医療、水環境、農業開発などの分野で国際協力を進めている。この科目は、国際連携センターの持つ国際協力に関する知見と実績を活かして、各分野で専門分野を学ぶことになる学生に、事前に国際的視野を持たせ、国内外の舞台で自ら考え、学び、行動できる人材となる基礎を植え付けることを目的とする。これらを通じ、これからの日本企業を含めた日本社会全体が求めている、グローバルな視点を持って異文化及び多分野間のビジネスコミュニケーションにも積極的に適応できる人材育成を目指す。	
ヘルスサイエンス	健康に関連した医学・保健学・心理学について学び、生命科学に対する興味関心を深め、その後の各専門領域での研究活動における動機づけの一助とする。人間のライフステージ、あるいは医学領域毎に、重要な心身の疾患、特に精神疾患、生活習慣病、感染症さらに性について学ぶ。		
学士力発展科目 (地域科学系)	フィールド体験講座	本科目は、フィールド体験(野菜の観察、牧場の体験学習、ガーデニング講座、河口域で魚類調査、田植、間伐)を通して、生き物を育てることを通じて農林水産業の現場と身近な環境について学び、生命の大切さを実感する体験によって感情的成長や身体的な発達を促すことを目的とする。	
	博物館概論	博物館・美術館などの社会教育施設の設置の目的・機能・歴史・現状ならびに生涯学習社会や地域の中で果たすべき役割について講義する。	
	地域キャリアデザイン	学内外の第一線で活躍する講師の話を通して、社会的責任・法の遵守・地域やより広い世界と関わることの重要性を学び、社会の一員として必要な知識・スキル・価値観の修得の必要性を知る。	
	ボランティア —地域のリーダーを育てる—	本科目では、生涯学習力、チームワーク及びリーダーシップ力、コミュニケーションスキルなどを育成するとともに、将来のリーダーとして地域で活躍する意欲と能力を育成することを旨とする。なお、授業は、学内外でのボランティア実践を中心に進められる。	
	地域学入門Ⅱ	「地元学」の手法を用いて、地域を深く調べ、考えることができるようになることを目的とする。講義では、地元学の歴史や実例を通じてその基本的な考え方を学習する。その後、地域に出て現地調査を行う。現地調査では、所属学部・学科以外の学生と班を組み、多様な視点を獲得するよう促す。現地調査終了後は、冊子の作成に向けて各自で調査成果をまとめる。これらの作業を通じて、地域への関心、コミュニケーション能力の向上を目指す。	
	地域インターンシップ	宮崎県内の地方自治体・企業・学外研究機関等において就業体験を行う。学生が実際の職場を経験することで、地域における行政活動や企業活動の現状を知り、宮崎県で働くイメージを持てるようになることを目的とする。	
	現代社会を読み解く	「社会学」は人間の社会的行動(社会生活)に潜む一定の規則性(社会関係、社会秩序など)とその因果関係を体系的に研究するものである。本講義を通して社会学という領域の見方・考え方を知り、受講生の個人的行動・事象を社会(ミクロにもマクロにも)と結びつけて解釈し理解する楽しみを身につける。	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域資源創成学部地域資源創成学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 教育 科目	学士力 発展 科目 (外国語系)	ビジネス英語Ⅰ-1	本科目では、TOEICスコアを基準として、クラス分け(Advanced classとBasic class)を行い、英語でビジネス交渉ができるコミュニケーション力をつける。様々なビジネスシーンで使われる基本的なフレーズを学ぶ。ビジネスコンテキストを実感して会話ができるよう、ロールプレイ方式で学ぶ(TOEIC part 3やSWテストのSpeakingを意識する)。 TOEIC目標スコア 【Advanced class】620 【Basic class】560	
		ビジネス英語Ⅰ-2	本科目では、TOEICスコアを基準として、クラス分け(Advanced classとBasic class)を行い、ビジネスシーンでのemailの書き方や、プレゼン資料の作り方を学ぶ。TOEIC part 7やSWテストのWritingを意識し、TOEIC part7に出る内容(過去問題)を集中的に学習することで、ビジネス文章に慣れ自分でも書けるようにする。 TOEIC目標スコア 【Advanced class】650 【Basic class】580	
		総合ドイツ語Ⅰ	本科目は、ドイツ語の基本文法を習得し、基本表現を覚え、辞書を使って読む力を養う。現在形の文章のみならず過去形や完了形、あるいは助動詞の使われた文章も理解できるようにすることをねらいとしている。また、ドイツ語圏の文化について学ぶ。	
		総合フランス語Ⅰ	フランス語を半期・週1回以上学習した学生を対象とし、初級レベルのコミュニケーション力の完成を目指す。	
		総合中国語Ⅰ	中国語の初級レベルを習得済みの者を対象とし、文法についての理解を深め、短期・長期の留学を視野に入れたコミュニケーション力の向上を目指す。	
		総合韓国語Ⅰ	1学期間韓国語入門を受講している(又は、同等レベルの)学生を対象とし、中級レベルに進むための基礎を固める。	
専門 英語	ビ ジ ネ ス 英 語	ビジネス英語Ⅱ-1	本科目では、TOEICスコアを基準として、クラス分け(Advanced classとBasic class)を行い、英語でビジネス交渉ができるコミュニケーション力を更に発展させる。ネゴシエーションの基礎と実践を学び、クラスの最後では、自分たちのTOEIC攻略法についてグループプレゼンテーションを行い、どの攻略法がベストかネゴシエーションする。 TOEIC目標スコア 【Advanced class】680 【Basic class】600	
		ビジネス英語Ⅱ-2	本科目では、TOEICスコアを基準として、クラス分け(Advanced classとBasic class)を行い、ディスカッションとプレゼンテーション中心の授業形式で行う。ディスカッションは、グローバルニューストピックをthe Guardian や the New York Times、Economistなどから選び、自分の意見が言えるようにする。SWテストのSpeakingを意識し、より精密な文法、発音、シンタックスを目指す。 TOEIC目標スコア 【Advanced class】730 【Basic class】620	
		特別英語Ⅰ	留学希望者や英語上級者を対象とするため、基本的にTOEICスコアで600点以上の保持者のみ受講可能。内容は日本人代表として海外に日本を発信できるよう、日本文化・食・歴史を英語で学び英語で体系的に説明する力をつける。日本の魅力を世界に発信できるよう、洗練されたプレゼンテーションスキルも身につける。英語と日本語による授業。 CEFRレベル:low B2、TOEIC目標:650～	
		特別英語Ⅱ	留学希望者や英語上級者を対象とするため、基本的にTOEICスコアで620点以上の保持者のみ受講可能。基本的に特別英語Ⅰ履修者対象。内容は宮崎大学の代表として海外に宮崎を発信できるよう、宮崎文化・食・観光地を英語で学び英語で説明する力をつける。内容は、地元企業・飲食店・観光施設などからの情報を得る。地域創成、地域の国際化の当事者として、積極的にプロジェクトを考え実施する。宮崎の魅力を世界に発信できるよう、洗練されたプレゼンテーションスキルも身につける。主に英語による授業。 CEFRレベル:high B2、TOEIC目標:730～	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域資源創成学部地域資源創成学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 マネジメント コア科目群	地域資源と地域振興	<p>【授業のねらい】 地域資源とは何か、なぜ地域資源を活かした地域振興が求められるのかを理解する。そのために①社会経済の発展と資源利用および国土構造の変化、②地方圏の社会経済の現状および地域資源を活用した地域振興の意義とその地域的特性、について理解を深める。</p> <p>【授業概要】 本科目は、まず資源および地域資源とは何か、について理解する。そして、社会経済の発展と資源利用、国土構造の変化、特に大都市と地方圏が抱える産業・社会経済上の問題点について各地域の特性と他地域との比較を踏まえ理解を深める。さらに、地域資源の発掘・再評価とその活用を通じた地域振興の方法について「地元学」の手法、6次産業化・農商工連携、海外・大都市と中山間地を繋ぎ交流するグリーンツーリズム等の取り組みについて理解する。そしてこれらに取り組み各地の事例について比較を通じてその地域的特性を理解する。</p>	
	経営学概論	<p>【授業のねらい】 経営学は、主に企業を対象とした学問分野である。企業とは何のために存在をしているのか、企業が、継続的に利益を上げ、存続をしていくために、どのように戦略を立て、組織をつくり、人を動かすのか。2年次以降の専門科目を履修する前に、経営学の領域を理解し、マネジメントに関わる基礎的な概念と理論について習得することをねらいとする。</p> <p>【授業概要】 経営学と企業に関わる基本概念として、経営組織や経営資源、市場環境、経営理念について学ぶ(第1回から第3回)。続いて、戦略の基礎としてのマーケティングや競争戦略について学び(第4回～第5回)、組織運営の観点から人的資源管理や財務、企業行動、企業倫理についての基礎を習得する(第6回～第9回)。第10回では、それまでに学んだ知識を整理し、応用すべく、企業の実例に基づいたケースディスカッションを行う。後半には、日本的経営、国際経営、公共経営、地域との関わり等、経営学のトピックを取り上げる(第11回～第14回)。</p>	
	マーケティング論Ⅰ	<p>【講義のねらい】 なぜ、企業では“マーケティング”が重要と言われているのか？経営におけるマーケティングとはなにか？消費者としての自分とはなぜその商品を選び、購入したのか？消費者としての日々の生活の事例を用いながら、理論理解だけでなく実感をもてるマーケティングの基礎知識、視点を学ぶ。</p> <p>【講義の概要】 マーケティングを実践するための理論を理解、習得するためにまずは企業のマーケティング活動の基本であるビジネス基礎として、前半は企業活動全般の基礎理解としての業種・業界によっての商流(財・サービスと対価としてのお金の流れ)を理解し、身近な全ての商売においてマーケティングがいかに活用され、重要であることを理解する。中盤においては、各業種・業界においても共通するマーケティングの基礎理論についての理解と習得を身近な事例を中心に理解を目指す。後半においては、新しい価値の創成に繋がるための革新的(イノベティブ)なマーケティング事例において活用されるマーケティング理論及びバターンの理解を目指す。</p>	
	会計学Ⅰ	<p>【授業のねらい】 会計の総論として、会計領域全般(会計制度、財務会計、管理会計、税務会計)の概略的知識を習得する。また会計実践を資料作成や事後報告ツールとみるのではなく、会計情報を活用し企業・組織の現状を洞察、未来志向的会計の視点から目的適合的行動提言力の涵養をめざす。そのために、各時代において企業が直面した問題とそれに対して企業がとった行動とを会計的に考察し、経済事象と企業行動との因果関係への理解を深め、会計的発想での問題解決力の基礎を獲得する。</p> <p>【授業概要】 文字の登場とともに原始的「会計」実践は始まった。人は何のために会計実践するのかを再考し、会計の意義に対する理解と、会計各領域を概略的に把握する。次いで、その知識を基に、1990年代以降の経済グローバル化、バブル期、会計ビッグバン、敵対的企業買収、ストックオプションとエンロン(粉飾)事件などをとりあげ、過去の資料(新聞・経済雑誌・報道番組)等から、企業が直面した問題とは何だったのか、当該企業はこれにどう対処したのか、その結果はどういったものだったのかを会計的視点で考察する。考察に当たっては講義形式での事例紹介・解説のほか、履修者で小グループを編成、グループ毎に資料収集、情報共有を行い、一連の企業行動についての考察をグループで取りまとめプレゼンテーションも行う。</p>	
	プロジェクトマネジメント	<p>【授業のねらい】 プロジェクトとは、「開始と終了のある一連の作業であり、時間・資源・目標によって制約を受け、具体的な成果物、期限、予算がある」という特徴がある。実社会では、経常業務と比較してプロジェクトが社会に与える影響が大きいことから、このようなプロジェクトを遂行するための知識や技能を高めることを狙いとする。</p> <p>【授業概要】 プロジェクトを効果的効率的に遂行するためには知識とスキルが必要である。プロジェクトマネジメントの流れ、プロジェクトを成功させるためのフェーズ毎の基本原則を解説して基本知識を習得する。その後、各分野の教員と共同で特定分野のプロジェクトを取り上げる。各教員が経験した、または知見を持ったプロジェクトを1つ取り上げ、まず当該分野のプロジェクトを進める上で必要となる知識・用語(業界・専門知識)の解説を行い、プロジェクトの概要と成果について解説する。多くの分野を取り扱うことにより、現代社会の抱える課題に興味と知見を高めるとともに、分野が違ってもプロジェクトを進めるという観点からは共通なものを理解する。</p> <p>&lt;オムニバス方式/全15回&gt; (2 谷田貝 孝/8回) ①プロジェクトとは何か、②プロジェクトマネジメントの全体像、③立ち上げフェーズ、④計画フェーズ、⑤実行フェーズ、⑥終結フェーズ、⑦小括、⑧プロジェクトマネジメントの要諦 (5 宮本健二/1回) ⑧伝統産業活性化プロジェクト (8 田中雄之/1回) ⑨コンテンツ企画制作プロジェクト (5 桑野奇/1回) ⑩観光増進プロジェクト (2 吉田雅彦/1回) ⑪産学官連携プロジェクト (19 井上果子/1回) ⑫農村ビジネスプロジェクト (7 熊野稔/1回) ⑬コンパクトシティプロジェクト (6 西和盛/1回) ⑭企業の農業参入プロジェクト</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要				
(地域資源創成学部地域資源創成学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	マ ネ ジ メ ン ト コ ア 科 目 群	地域社会学概論	<p>【授業のねらい】 われわれが日常生活を営み、学ぶフィールドでもあり、また振興すべき対象となる「地域社会」を、歴史的・空間的な広がりの中かで立体的に把握する。</p> <p>【授業概要】 「地域社会」とは、様々な人々が生活する場所である。それは単なる物理的空間ではなく、人と人、モノ、自然などの多様な関係によって成り立っている。本講義では、こうした「地域社会」を社会関係や社会組織から把握し、それらが日本社会の近代化に伴ってどのように変容し、現代における「地域振興」と結びつくのかを考えたい。地域振興に関する事例も取り上げるが、こうした事例を単なる「優良事例」としてではなく、その背後で生じる問題も含めて紹介することで、地域振興の光と影について学ぶ。</p>	
		簿記論	<p>【授業のねらい】 簿記とは、一連の会計行為、すなわち経済主体(企業等)が行う経済活動(取引)を記録・計算・報告する行為のうち、日々の帳簿記録・集計そして財務諸表といわれる報告書作成に関する技能とその原理の体系である。この講義は、簿記技能獲得の入門であると同時に、後続する各会計系科目において財務諸表を資料として活用し経済主体の活動を会計的視点で洞察する力(会計力)を獲得する基礎科目と位置付けられる。</p> <p>【授業概要】 ビジネス一般の「取引」及びそこで交わされる用語や帳票・報告書類の種類や機能・作成過程を理解し、次いで例題取引の会計処理演習を通して簿記技能習得を目指す。この講義で扱う取引と処理方法は、日本商工会議所主催の簿記能力検定試験-3級(以下、日商3級)の出題範囲とはほぼ一致している。しかし教場での限られた時間の中、履修者に日商3級程度の技能習得に足る演習時間を担保することは困難であり、本講義では演習よりも、会計的思考やその後の技能向上の基礎となる簿記原理一通りの概説に重きを置くこととする。一般に日商3級合格のためには60～80時間の演習を含む学習が必要と言われている。検定取得を志す場合は、講義受講に加え、自発的な演習訓練を要する。</p>	
		法学入門	<p>【授業のねらい】 法学の基礎知識を習得し、問題意識を持つことをねらいとする。</p> <p>【授業概要】 講義の前半では、「裁判」をテーマにして、法の基礎的知識について説明をする。具体的には、法が何かを明らかにした上で、裁判に必要とされる法の種類(法源)、裁判所の組織、民事事件、刑事事件、そして少年事件、に関する事項について説明をする。そして講義の後半では、日本の統治機構及び人権論の基礎を扱った上で、実際に社会における法の働きについて、特に4つのテーマについて概観する。</p> <p>&lt;オムニバス方式/全15回&gt; (16 足立文美恵/7回) ②法とは何か?、③法源、④裁判と法(1)、⑤裁判と法(2)、⑥民事事件、⑦刑事事件、⑧少年事件(24 成瀬トーマス誠/8回) ①ガイダンス、⑨日本の統治機構、⑩日本社会の基本的価値:人権、⑪社会と法(1)生命倫理、⑫社会と法(2)同性婚、⑬社会と法(3)外国人参政権問題、⑭社会と法(4)国家と宗教、⑮総括</p>	オムニバス
		地域経済学	<p>【授業のねらい】 グローバル化が進む中、地域経済は製造業雇用の縮小や農村の危機などに直面し、人々の生活を支える地域経済の発展が重要なテーマとなっている。そこで、地域経済の維持可能で内発的な発展の筋道を日本と世界の事例を通して考える。</p> <p>【授業概要】 地域経済の維持可能で内発的な発展の筋道について、東京、横浜・川崎・神奈川県、金沢、シリコンバレー、フライブルク、綾町、諸塚村、榑原町、帯広市など日本と世界の事例、地域経済学説、地域経済理論を学習する。その上で、受講生が自らの関心に沿って任意の自治体を選定し、講義で修得した知識と分析方法を駆使して、それぞれの地域の土地利用・事業所・域内生産額・産業別就業人口・財政支出・環境・地域文化などに根ざした地域経済循環、公共・民間循環、環境・社会循環を集約した「地域の政治経済制度と3層の地域循環構造」図を作成し地域課題を探る。</p>	
		マクロ経済学	<p>【授業のねらい】 マクロ経済学は、個々の経済活動を集計した一国経済の動向分析を目的として構築された経済理論である。マクロ経済学の分析範囲は、一国経済(各国経済)・地方自治体レベルでの経済的動向、国家間関係に広がっている。これら、各国、各国間の経済を分析するための手法を理解し、日本やアメリカ、中国等の国々が、どのような経済的特徴を持っているのかを分析する能力の向上を目指す。また、各国間分析を通じて、経済のグローバル化についての理解を深める。</p> <p>【授業概要】 日本経済あるいは各国経済(世界経済)の「形」とはどのようなものなのだろうか。日本の貿易収支は何故赤字化したのだろうか。このような問題を解き明かすには、経済学の基礎的な考え方を理解する必要がある。また経済学は、あらゆる経済的事象を定量的に把握し、適切な経済政策への道筋を示すことを主要な目的の1つとしている。</p> <p>本授業では、経済学の基本的原則を理解した上で、日本経済や国際経済、地域経済分析に必要な不可欠となる国民所得(GDP)、産業連関分析、経済成長と公共政策の理論にくわえ、国際貿易、国際収支、外国為替相場など国際経済学に関する主要な理論を学ぶ。これらマクロ経済学の理論を学ぶことで、日本経済はもとより各国経済の統計分析能力の向上や経済学的思考の醸成を目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域資源創成学部地域資源創成学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	マネジメントコア科目群	<p>【授業のねらい】 講義では、ミクロ経済学の基礎理論を習得し、経済学の思考法を身につけることを目標にする。</p> <p>【授業概要】 私たちの生活を現実の経済問題と切り離して考えることはできない。個人、企業、政府、その他様々な組織は、常に何かを選択し、社会の資源を使って、活動している。この講義では、ミクロ経済学の基礎理論の習得を通じて、消費者（家計）、企業の意思決定を理解するとともに、経済学の思考法を身につけることを目標にする。さらに、市場の機能と限界についても学習し、経済問題について議論する能力を身につける。</p> <p>通常は、講義形式によって行う。毎回、講義のはじめに小テストを行い、理解・到達状況を確認しながら進める。講義のうち数回は、テーマに関する概説の後に、関連の話題を用いたグループワークを行う。</p>	
	コースコア科目群	<p>【授業のねらい】 地域資源を活用した地域産業創出の現状、その様々な手法、それが地域にもたらしうる成果、課題について、多様な観点から学ぶ。</p> <p>【授業概要】 本講義は、「地域産業創出 コース」のカリキュラムのダイジェストであり、イントロダクションである。学生がコースを選ぶ際の参考とすることを目的としている。地域産業創出に関連する専門の教員がオムニバス形式で授業を行う。フードビジネスやデザイン開発、コンテンツ開発等に触れながら、地域資源活用による地域産業創出や地域資源の新たな価値・魅力発信の現状について多様な観点から解説し、そこで用いられる手法、それがもたらしうる成果、抱える課題について理解を深める。また、背景的知識として食品産業や観光産業構造についても学ぶ。</p> <p>授業の最後には、地域資源を活かした地域産業創出の取組事例や地域資源の新たな価値・魅力発信事例について学生が情報収集を行い、レポートを作成する事例研究を行う。</p> <p>&lt;オムニバス方式／全15回&gt; (② 吉田雅彦／4回) ①地域資源と地域産業創出、⑩観光による地域振興、⑪地域産業の振興、⑬地域資源を活かした地域産業創出の事例研究2 (⑥ 西和盛／2回) ②日本の農業とフードシステム、④フードビジネスの展開 (⑪ 山崎有美／2回) ③食の安全と健康、⑦食品の製造と開発 (⑨ 近藤友大／1回) ⑤農業の現状と新たな展開 (③ 撫年浩／1回) ⑥畜産の現状と新たな展開 (⑤ 宮木健二／2回) ⑧地域資源活用によるデザイン開発、⑭地域資源を活かした地域産業創出の事例研究1 (⑧ 田中雄之／1回) ⑨メディアコンテンツを活用した地域資源の新展開 (① 出口近士／1回) ⑫地域間交流による経済活性化 (⑩ 芦田裕介／1回) ⑬地域資源と地域づくり</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(地域資源創成学部地域資源創成学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	コ ー ス コ ー ス 目 録	<p>【授業のねらい】 地域社会がもつ課題、地域資源活用のための基礎的な知識を網羅的に習得するとともに、今後の地域づくりの潮流やあり方を学ぶ。</p> <p>【授業概要】 本講義は、「地域創造コース」のカリキュラムのダイジェストであり、イントロダクションである。学生がコースを選ぶ際の参考とすることを目的としている。地域創造に関連する専門の教員がオムニバス形式で、国土開発計画及び地方計画の歴史と経緯、開発や社会システムに関わる法体系の基礎知識を供与する。また、過疎地域、中山間地域、地方都市が抱える問題点や課題を解説するとともに、各地で実施されている再生・活性化の事例を通じて地域創造の今後の方向性やまちづくり、むらづくりのマネジメント手法を学ばせる。 各教員が授業の最後の10分程度を利用して、授業内容のミニテストを実施する。また、全国で実施されている地域づくりの取り組みのレポートを作成させる。</p> <p>&lt;オムニバス方式/全15回&gt; (7 熊野 隼/5回) ①講義のオリエンテーション、②全国総合開発計画と広域地方計画、③国土利用計画法、都市計画法と土地利用規制、④災害と防災まちづくり、⑤景観法、都市緑地保全法、都市公園法、屋外広告物法(24 成瀬 トーマス 誠/1回) ⑥憲法と地方自治(9 入谷 貴夫/1回) ⑦国・自治体財政と地域創造(16 足立 文美恵/1回) ⑧法と個人の権利・義務(15 丸山 亜子/1回) ⑨地域における法の実現－雇用をめぐる問題解決に向けて(5 桑野 奇/2回) ⑩都市社会とコミュニティ形成、⑪社会資本の整備、維持、管理(12 戸敷 浩介/1回) ⑫環境法、公害法、自然保護法、環境影響評価法(⑩ 芦田 裕介/1回) ⑬農地法、農業振興地域制度と農村振興計画(19 井上 果子/1回) ⑭内発的発展と持続可能社会(① 出口 近士/1回) ⑮コンパクトシティと中心市街地活性化</p>	オムニバス
		<p>【授業のねらい】 現代企業におけるマネジメントの手法の現状とその課題、戦略的な意思決定、イノベーションの創出に向けた取組など、企業マネジメントの潮流について学ぶ。</p> <p>【授業概要】 本講義は、「企業マネジメントコース」のカリキュラムのダイジェストであり、イントロダクションである。学生がコースを選ぶ際の参考とすることを目的としている。企業マネジメントに関連する専門の教員がオムニバス方式により授業を行う。経営学及びその関連領域の各科目(組織論、戦略論、ベンチャービジネス、マーケティング、会計等)が企業マネジメントにおいて果たす役割について解説を行い、産業に新たな価値創造(イノベーション)を引き起こし、産業振興に寄与する次世代のビジネスリーダーに必要な視野を涵養する。</p> <p>&lt;オムニバス方式/全15回&gt; (2 谷田 貝 孝/4回) ①イントロダクション、②企業経営と組織、③企業家精神とイノベーション、④特色ある企業マネジメントの事例研究2(④ 金岡 保之/3回) ⑤企業の戦略的経営、⑥企業の社会的責任、⑦ICTと地域産業(18 土屋 有/2回) ⑧マーケティングと企業戦略、⑨特色ある企業マネジメントの事例研究1(4 園 弘子/2回) ⑩企業経営と会計、⑪企業経営分析とその手法(10 丹生 見隆/3回) ⑫ビジネスプランニングとベンチャービジネス、⑬技術経営概論、⑭地域産学官連携と新事業創出(⑦ 根岸 裕孝/1回) ⑮コミュニティビジネス概論</p>	オムニバス

様式第2号(その3)

授 業 科 目 の 概 要			
(地域資源創成学部地域資源創成学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	コース コア 科目 目 群	<p>【実習のねらい】 大学近隣の行事等に参加することで地域への理解を深め、情報収集能力の基礎を身につけ、地域住民との交流を通じて、コミュニケーション能力を高める。</p> <p>【実習概要】 学生を3グループ(1グループ約30名)に分け、大学周辺地域において集団で実習する。 ①宮崎市や自治会の協力を得て、市職員や自治会役員から地域の実情と問題課題について説明を受けるとともに、意見交換する。 ②産業等やまちづくりに関する視察体験や行事等の企画・運営に参画するサービスマーケティングを行う。 ③視察体験や意見交換内容を個人レポートとしてまとめるとともに、地域行事の伝承・実施方法の改善・提案などの内容のグループレポートを作成させる。 ④なお、大学生活を始める身近な地域環境に慣れ親しむことも目的とする。</p>	<p>専任教員による 分担</p> <p>1グループに専 任教員3名を配 置</p>
		<p>【実習のねらい】 県内各地の地域に実際に触れ、地域住民と意見交換を行うことで、情報収集能力を高めるとともに、地域資源とは何かを探る。また、地域により異なる住民の意見や現場の情報・課題を整理し、必要な情報をまとめる能力を身につける。</p> <p>【実習概要】 90名の学生を3グループ(概ね30名ずつ)に分け、市街地と農村・山間部を集団で実習する。 ①訪問先の市町村に関わる地域課題と地域資源を事前学習する。 ②自治体の担当者から、地域課題と地域資源について講義を受ける。 ③その後、実際にその現場を視察調査し、地元関係者や自治体関係者と意見交換する。 ④事前調査と現地調査の内容を個人レポートとしてまとめ、地域における現状についてグループで情報分析・課題抽出し、レポートを作成する。 ⑤グループ発表を行い、自治体・地元関係者を含めて討論する。</p>	<p>専任教員による 分担</p> <p>1グループに専 任教員3名を配 置</p>
		<p>【実習のねらい】 県内企業等を調査し、経営者と意見交換を行うことで、産業毎の経営・マーケティング手法や地域資源との関わりを知る。また、現場の情報を整理し、地域や企業における課題について分析する。</p> <p>【実習概要】 90名の学生を3グループ(概ね30名ずつ)に分け、産業別(農業系・製造業系・サービス系)で集団で実習する。 ①訪問先の企業、地域や業界の課題について事前学習する。 ②企業関係者から、企業の歴史、地域資源、経営方針や特徴、マーケティング手法などの講演を受ける。 ③その後、実際に企業を視察調査し、経営者と意見交換する。 ④事前調査と企業訪問の内容を個人レポートとしてまとめ、企業における現状についてグループで情報分析・課題抽出し、レポートを作成する。 ⑤グループ発表を行い、企業関係者を含めて討論する。</p>	<p>専任教員による 分担</p> <p>1グループに専 任教員3名を配 置</p>
専門 発展 科目	マネ ジ メ ン ト ア ド バ ン ス ト 科 目 群	<p>【授業のねらい】 組織理論に関して組織デザインを中心に理解を深めることをねらいます。この授業では組織理論の学習を通じて組織現象を深く考察する能力を向上させる。</p> <p>【授業概要】 理論を自在に使いこなすため、各概念・理論を丸暗記するのではなく、組織、組織の境界、組織構造、組織デザインといった理論を構成する上で重要な諸概念と諸概念間の関係を深く理解し、自分の言葉で説明できるよう、一つ一つの概念について時間をかけて講義を行う。 経営者の重要な仕事の一つは、戦略に適合した組織をデザインしてこれを現実構築することである。組織をデザインするためにはどのような理論を使って行か、そして一度デザインされた組織はどのような事象により影響を受けるのかについて順を追って理解していく。</p>	
		<p>【授業のねらい】 経営環境が変化して不確実性が増すなど、現代企業を取り巻く経営環境は多様で厳しい。こうした中、企業の経営戦略はますます重要性が高まっている。本講義では、経営戦略とは何か、なぜ必要なのか、企業経営にどのような意義をもつのかなどの経営戦略に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>【授業概要】 「経営戦略とは何か」、「なぜ今必要なのか」などの問いから始まり、経営戦略に関する基礎を分析手法や理論的枠組み(フレームワーク)を用いて習得する。また、経営戦略に付随して企業の戦略的経営を考える上で重要となるリーダーシップ論、企業家精神、コーポレートガバナンス、CSRなどについて幅広く学ぶ。 必要に応じて、実際の企業の事例を取り上げわかりやすく解説すると共に、20数年間起業しビジネスリーダーとして企業経営を行ってきた自らの経験を踏まえた講義を行う。授業において理論と実践の融合を図ることで経営全般についての理解を深める。また、参加型・双方向の授業を行うことによって、学生自らが経営者となったつもりで考えることを促す。</p>	



授 業 科 目 の 概 要				
(地域資源創成学部地域資源創成学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 発 展 科 目	マ ネ ジ メ ン ト ア ド バ ン ス ト 科 目 群	マーケティング論Ⅱ	<p>【授業のねらい】 より具体的なマーケティング課題を設定したうえで、最新のマーケティング戦略を取り込んだケーススタディをベースにすることで、マーケティング計画の修正が必要となった際の柔軟性ある対応ができるようになるための知識と実践するために必要な視点の獲得を目指す。</p> <p>【講義の概要】 過去のマーケティング理論のみでの競争では新しい時代では生き残ることは困難であり、制約条件下での資源でのマーケティングスキルを身につけるためには、オリジナルのマーケティング戦略を生み出すチカラが必要となっています。そのために必要な新しいマーケティングの形について取り上げます。テレビ、新聞だけでなくインターネットを含めた複合的なメディアを活用した顧客分析、顧客獲得のためのマーケティング戦略。そして、新しいサービスを生み出すために必要なテクノロジーの活用、最終的にマーケティング計画を実現するために必要なマネジメントスキルの獲得のためのフレームワークとケーススタディを学ぶ。</p>	
		企業家精神とイノベーション	<p>【授業のねらい】 本科目ではイノベーション概念を正確に深く理解した上で、今日の日本経済・地域・企業にとってイノベーションがいかに大切かを理解し、その上で学生が将来企業家精神を発揮し、イノベーションを起こすことができるようになるようなきっかけを得ることを主眼とする。</p> <p>【授業概要】 企業は価値を創造し社会に貢献しなければならないが、そのためには企業家精神をもった経営者によるイノベーションが不可欠である。ドラッカーによれば、企業家精神とは「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として利用する。」と定義されている。また、価値を創造するとは「価値と満足を創造し単なる素材を資源に変える、あるいは新しいビジョンのもとに既存の資源を組み合わせることであるがそのための方法であるイノベーションとは「意識的かつ組織的に変化を探ることである。それらの変化が提供する経済的、社会的イノベーションの機会を体系的に分析すること。」とされている。指定教科書ではそのための原理と方法を具体的に説明しているのので、この理解を通じて「企業家精神とイノベーション」を実践できることを目標とする。</p> <p>＜オムニバス／全15回＞ (2 谷田貝 孝／9回) ①イノベーションとは、②イノベーションの歴史、③イノベーション理論、④イノベーションの方法(1)、⑤イノベーションの方法(2)、⑥イノベーションの方法(3)、⑦企業家精神の条件(1)、⑧企業家精神の条件(2)、⑨各自が目指すイノベーション (⑤ 宮木 健二／1回) ⑨デザイン分野におけるイノベーション (② 吉田 雅彦／1回) ⑩地域振興分野におけるイノベーション (7 熊野稔／1回) ⑪都市計画分野におけるイノベーション (⑨ 近藤友大／1回) ⑫栽培分野におけるイノベーション (③ 撫年浩／1回) ⑬畜産分野におけるイノベーション (⑦ 根岸裕孝／1回) ⑭地域経営分野におけるイノベーション</p>	オムニバス
		地域経営論	<p>【授業のねらい】 地域経営とは何か、そしてなぜ求められるのか、その背景を理解し、地域を経営するために必要な知識と実践に向けた基礎的な知識を身につける。</p> <p>【授業概要】 我が国の地方自治体は、グローバル化の進展による産業構造の転換や人口急減・超高齢化という直面する大きな課題に直面しており、各地方自治体が主体的に地域の資源(自然・文化・技術・産業・人材等)を活かして雇用を創出し自律的で持続的な地域社会づくりが求められている。地域経営が求められる時代背景を理解し、地域経営に不可欠な地域資源を活用し持続可能な地域社会づくりに向けたマネジメントはどのようにあるべきか、先進事例に学びながら理解を深める。</p>	
		地域活性化システム論	<p>【授業のねらい】 地域活性化に貢献する様々な分野の企業や、基礎自治体、都道府県、地方局、国などの行政が、それぞれのビジョンと、活動方針を持って、継続的に地域活性化に取り組んでいることを学ばせる。地域活性化には、ノウハウ、進め方が大事だが、それ以上に、それらを担っている熱心な人たちの思いこそが重要であることを学ばせる。</p> <p>【授業概要】 わが国では、人口急減・超高齢化という大きな課題に直面する中、各地域がそれぞれの特徴を活かし、自律的で持続的な社会を創生することが求められている。宮崎県内及び九州においても、多様な分野と業種にわたって地域活性化に向けた取り組みが進められている。その地域活性化に係る理論的背景を学ばせるため、地域活性化事例のキーパーソンをゲスト講師に招き、その取り組みの現況とその背景、今後の課題について話を伺い、地域活性化に必要なことは何かを考える機会を創出するとともに、キーパーソンの思いや志を直接伺うことを通じて、地域活性化における求められるリーダー像や自らのキャリア形成について理解を深めるものとする。</p> <p>さらに、地方自治体及び各省庁の地域活性化に関する政策担当者を招き、地域活性化に関する事例や取り組み支援に関する施策についての講義も展開する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域資源創成学部地域資源創成学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 発 展 科 目	マ ネ ジ メ ン ト ア ド バ ン ス ト 科 目 群	交流マネジメント論	<p>【授業のねらい】 地域社会を持続させるためには、地域への来訪者を増加させ、来訪者と地域住民との交流を深め、これらの交流を地域の活性化につなげることが必要とされている。この方法として、農山村漁村地域では都市住民との交流、地方都市部では各種イベントを通じて国内の広域、あるいは外国居住者との交流を企画・実施している。本授業は、これらの交流のためのマネジメントについて学ぶ。</p> <p>【授業概要】 本授業の前半では、交流の最終目的である“地域の活性化”という目標達成のために複数のプロジェクトを括的にマネジメントするプログラム&amp;プロジェクト・マネジメント技法について学ぶ。後半では、南九州地域や宮崎県内の文化・交流・観光イベント(夜神楽、国際音楽祭、ひよっこまつり、運河まつり、棚田オーナー制度、プロ野球キャンプなど)の事例を通じて、人的交流をマネジメントするための地域資源の発掘方法、人的資源管理、情報ネットワーク形成・管理、社会的コミュニケーションなどの基礎知識と社会技術を学ぶ。</p>
		経済政策	<p>【授業のねらい】 経済政策の目的と手法・対象領域や経済政策思想の展開等の経済政策論の方法について理解を深めるとともに政府が行う財政・金融政策の役割、国際経済政策、産業政策、労働政策、中小企業政策、国土・地域政策、環境・エネルギー政策の歴史とその背景と課題について理解を深める。</p> <p>【授業概要】 本講義は、テキスト及び配付資料に基づきながら経済政策の目的と手法、主体、対象領域や経済政策思想の展開について解説する。さらに成長・安定の経済政策及び分配政策、国際経済政策、産業政策、中小企業政策、国土・地域政策、環境・エネルギー政策についてその歴史と背景、今日的課題について解説を行う。まとめとして我が国の経済政策を巡る論点を取り上げ、今後の課題を明らかにする。</p>
		財政学	<p>【授業のねらい】 財政の基本的な構造と機能を踏まえ、永続的な財政の課題を理解することを目標として、経済における公共部門と財政の役割と課題を考える。</p> <p>【授業概要】 国民経済における財政は、現代社会と経済のあり方と地域社会と地域経済を方向付ける役割を有している。そこで、財政の3つの機能、重商主義・古典派・ドイツ財政学・フィスカルポリシー・新自由主義の学説、歳入と歳出の仕組み、戦後日本の財政政策の歴史、現代日本の財政政策の現状と課題等を学習する。その上で、新年度予算の編成プロセスをフォローすることにより、世界政治の動向・世界経済の動向・わが国の社会経済動向・地域経済動向等との関連で編成される予算の実情を理解し、合わせて地方財政計画の決定過程と計画内容を理解する。</p>
		金融論	<p>【授業のねらい】 今日の経済を把握する上で、実体経済とともに金融経済の能動的な役割を理解することが不可欠である。そのために、貨幣や信用など金融の基礎理論、銀行制度や証券制度など金融制度、金利政策や公開市場操作など金融政策、地域金融の役割を理解する。</p> <p>【授業概要】 金融の基礎となる貨幣や信用について価値尺度や支払手段など貨幣の役割、手形や割引など信用の役割、我国の金融制度の基本となった分業主義、預金・貸出業務、銀行の機能と経営など銀行制度、株式・社債による資金調達や証券業務など証券制度、金利操作や公開市場操作など金融政策、金融自由化と金融制度改革を講義する。その上で、地域経済の発展にとって重要な役割を期待されている地方銀行や信金・信組などの地域金融の構造と役割を講義する。</p>
		世界経済論	<p>【授業のねらい】 第二次世界大戦後の世界経済は、アメリカ主導のもと形成され、先進国を中心とした自由貿易体制が構築されている。その過程で、各国企業は多国籍化を果たし、グローバルな領域で企業活動を展開するようになっていく。この経済のグローバル化に関わる経済的・政治的な国際協調の流れを理解することを目指す。また2000年代以降の新興国・発展途上国・地域の台頭や地域経済統合により、世界経済構造が変容しつつあることを理解する。</p> <p>【授業概要】 現代の世界経済は、国民国家を中心とした国際協調体制によって維持され、アメリカを中心として自由貿易や市場開放が指向されてきた。しかし、多国籍企業の企業規模の拡大、グローバル化の進展、新興国の台頭により、その構造は大きく変容しつつある。現代世界経済は、多国籍企業を含む経済主体と国際政策協調の展開を抜きにして理解することは不可能である。つまり、政治と経済が融合した複合的領域から理解することが求められる。本講義では、現代世界経済構造が、いかに形成され、いかなる主体によって維持され、変容しつつあるのかを、特に経済のグローバル化をキーワードとして考える。また近年のアジアにおける地域経済統合の動きについても取り上げる。</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(地域資源創成学部地域資源創成学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 発展 科目	マネジ メント アド バン スト 科目 群	日本経済論	<p>【授業のねらい】 日本経済の歩みと直面する課題を踏まえながら、日本経済が抱える問題点と課題について諸分野ごとに解説を行い、その理解を深める。さらに日本経済新聞を活用し、日本経済の今日的課題を読み解くリテラシーを高める。</p> <p>【授業概要】 戦後我が国の経済発展を実現させた「日本型経済システム」は、転換期を迎えつつある。グローバル化の伸展と産業経済の成熟化、人口減少に直面した日本経済は、多くの課題を抱えながら変化し続けている。日本経済が抱える問題点と課題について経済全般・財政・金融・貿易・産業・雇用・社会保障・地域・環境・エネルギー等の諸分野ごとにその背景を踏まえながら解説を行う。また授業では毎回日本経済新聞の掲載記事解説や受講生の記事解説等の小レポート提出を通じて日本経済を読み解くリテラシーを高める取り組みを行う。</p>	
		ウェブデザイン	<p>【授業のねらい】 経営環境が変化して不確実性が増すなど、現代企業を取り巻く経営環境は多様で厳しい。こうした中、企業の経営戦略に基づいた広報、販売支援、ネットワーク構築、国内外のステークホルダーとの交流などの目的でウェブサイトを構築する必要がある。「1誰に対して、2何を発信し、3どのコンテンツをどのように活用し、4どのようにコミュニケーションを図るのか」など、ウェブ戦略におけるウェブデザインの重要性は益々高まっている。本講義では、ウェブデザインに関する基本的な知識を習得すると共に、自らが手を動かして、目的に沿ったウェブサイトから構築する技術を身につけることを目標とする。</p> <p>【授業概要】 専門知識を必要とせず、ウェブサイト構築やコンテンツ管理を安価で実現する仕組みのCMS (content management system) の1つであるドイツ生まれの「Jimdo (ジンドウ)」を活用する。講義の前半では、「インターネットの仕組みと歴史」、「web2.0とソーシャルメディア」、「インターネット・マーケティング」の考え方や仕組みを理解し、効果的なウェブデザインとは何かを考える。講義の前半では、地域産業の活性化を想定した戦略的なウェブサイト構築にすぐ役立つように、ウェブサイトや関連の各メディアの構築、情報コンテンツの制作などの実習を行い、一連の技術を習得する。講義の後半では、地域活性化のためにはどのようなウェブデザインが望ましいかを、ベストプラクティスを参照しながら「地域に即したウェブデザインとは何か」を考察する。</p>	
		コンテンツプロデュース	<p>【授業のねらい】 コンテンツプロデュースには正解はないので、たくさん事例研究をできるだけ生の声から行い、体系化させることが目的である。その体系に基づき実践を行い、フィードバックを重ねながら方法論の取得を目指す。</p> <p>【授業概要】 コンテンツプロデュースとは何もないところから“何か”を企画し、世の中に生み出すことである。しかし、求められないものは生み出してもコンテンツにはならない。そこで、本講義では、世の中のニーズや空気感を察知し、その上で企画開発をすることを学ぶ(0から1を生む)。アイデア発想法などのメソッド論や基本知識や基本技術を伝えるだけではなく、過去のヒットコンテンツの開発経緯を疑似体験し、コンテンツ開発の思考回路を体験する機会を多数作る。</p>	
		デザインマーケティング	<p>【授業のねらい】 マーケティングとは、一般に企業が市場に対して新しい事業や商品・サービスの需要を見出ししていく活動のことである。近年のマーケティングでは、企業はもちろん個人・団体・自治体等の活動においても、デザインによる高付加価値が知的財産やソリューションとして一段と注目されている。もはや消費のみならず、新たなメディアの創出や地域活性化策など、広く社会の関心と活用が拡大するなかで、こうした創造的観点から具体事例を交え解説し、次代を担う学生がその意義や今後の可能性を自ら考察する契機とする。</p> <p>【授業概要】 市場戦略・商品戦略・差別化戦略・環境戦略を導くためのマーケティングの考え方を身につけながら、デザインマーケティングのケーススタディとしてApple、バルミューダデザイン、dyson、資生堂、東京ガールズコレクション、バンダイ、サントリー、男前豆腐店、星野リゾート等の製品やサービス、メディアプロモーションの具体例を考察する。終盤では、教員が企画開発に携わった愛媛県、徳島県、大阪府、奈良県、鳥取県等の地域資源や伝統産業の素材・技術を転用した新製品開発スキームと多種の写真や実際の方法、商品現物から、「現状認識→課題と可能性の抽出→コンセプトワーク→デザイン・試作→テストマーケティング→ブランディング→商品化→販路開拓」という一連の流れを理解する。</p>	
		広告メディア・コミュニケーション	<p>【授業のねらい】 広告の歴史や変移を学びながら、現代社会におけるコミュニケーションのあり方を研究。広告学ではなく、伝え方、を学ぶ時間にする。地域を盛り上げるなかを作るだけではなく、伝えることの重要性を学習させる。</p> <p>【授業概要】 せっかく作ったコンテンツも世の中に伝わらなければ存在しないことと等しい。マーケティング、コミュニケーションデザインによる世の中への伝え方を学ぶ。(1から100へ広げる)コミュニケーションの歴史と方法論の変化を学びながら基礎知識と技術を身につけ、現在の特異な社会環境＝情報洪水社会に適切できるコミュニケーション戦略、マーケティング戦略を学ぶ。様々な視点からのアプローチを体験し、表面的ではない本質的な方法論を会得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域資源創成学部地域資源創成学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 発 展 科 目	マ ネ ジ メ ン ト ア ド バ ン ス ト 科 目 群	地域社会と内発的発展	<p>【授業のねらい】 内発的発展論の考え方を理解し、地域社会に対する問題意識を深めることを目的とする。また、学生自らが、社会の一員、当事者として地域社会の発展のあり方について、考察できるようになることを目標とする。</p> <p>【授業の概要】 地域固有の発展のあり方を模索しつつも、発展の共通目標を「地球上全ての人々及び集団」におき、歪みの構造を変革することを目指す内発的発展論(鶴見和子1989)の立場や事例を解説する。また、実際社会の構造等を理解し、地域社会の背景や現代における実情を概観しつつ授業を進める。地域社会や内発的発展論に関連する基本的概念や地域社会の関係性等に関する講義と、各概念・論理を自らの思考に組み込むことを促すワークショップを交互に行い、考える姿勢をもって授業を展開する。また、理論的・概念的に導出される考えがいかに現実社会で適用されることが困難かについても、具体事例を交えつつ紹介する。</p>	
		異文化理解と国際協力	<p>【授業のねらい】 国際協力の現場や海外事情に関する視野を広げ、国際社会の一員として、国際協力活動や異文化の人々とのコミュニケーションを実践することで、グローバル(地球規模の視野で考え、地域視点で行動する(Think globally, act locally))マインドと異文化コミュニケーション実践力を身に付けることを目的とする。</p> <p>【授業概要】 異文化理解と国際協力に関し、講義と実践活動の両方を行う。国際協力に関しては、実際に現場でどのような活動が行われているのか、ゲスト講師を招きつつ講義で紹介する。また、フェアトレードを推進するNGOと連携し、フェアトレード商品を宮崎市内で販売・PRする国際協力活動を企画・実践する。異文化コミュニケーションについては、留学生(または、ベトナムの大学生)と英語、日本語、その他手段で会話し、理解した互いのこと(要点)を英語でまとめ、内容に相違ないことを合意し、発表する。(県外や海外の関係者との会話や打合せは、スカイプ・テレビ会議を行うことを想定。)</p> <p>&lt;オムニバス方式/全15回&gt; (19 井上果子/10回) ①ガイダンス、②国際協力概論:ODA、国際NGO、国連システム、フェアトレードなど、様々な国際協力のメニュー、仕組みを解説、③国際協力の現場(1)NGO草の根支援活動、④国際協力の現場(2)ODA事業、⑤国際協力の現場(3)ジェンダーと開発、⑥国際協力の現場(4)気候変動対策(国際交渉)、⑦国際協力の現場(5)フェアトレード(国際協力活動に関する関係者との打合せ含む)、⑧国際協力活動(フェアトレード)の計画・関係者との打合せ、⑨国際協力に関するレビュー・レポート作成、⑩異文化コミュニケーションレビュー (23 福島三穂子/2回) ⑩異文化コミュニケーション概論、⑪英語によるコミュニケーションの技法 (19 井上果子・23 福島三穂子/3回)(共同) ⑫異文化コミュニケーション実践(1)自己紹介・自己PR・発表 地域社会(コミュニケーションもサポートとして参加)、⑬異文化コミュニケーション実践(2)自国文化紹介・発表 地域社会(コミュニケーションもサポートとして参加)、⑭異文化コミュニケーション実践(3) コミュニケーション結果のミニツ取りまとめ・発表</p>	オムニバス
		国内インターンシップ	<p>学内外で開講する講義や地域実践実習に加え、2～3年次の長期休暇を利用して、1ヶ月程度の国内インターンシップ(県内を中心に)に行くことで、講義や地域実践実習で得た知識や実践能力を、さらに個人で高めることを目的とする。</p> <p>また、国内インターンシップでは、社会人と接する環境で実社会を経験し、様々な課題や問題を実体感することで、社会人として求められる能力を的確に理解し、自ら行動できる実践力を身に付けるとともに、自身のキャリアについて考える機会を得ることもできる。</p> <p>さらに、インターンシップ後は、学生の学業へ対する取り組み姿勢が向上する効果も期待できるものである。</p>	
		海外短期研修	<p>学内外で開講する講義や地域実践実習に加え、2～3年次の長期休暇を利用して、2週間程度の海外短期研修に行くことで、講義や地域実践実習で得た知識や実践能力を国際的な視点から高めることを目的とする。海外短期研修については英語力上級の希望者5名程度を予定している。</p> <p>また、海外短期研修では、アジアを中心とする海外の日本企業等に行くことで、現地で活躍する日本人に接し、海外での様々な課題や問題を実体感し、日本との文化等の違いや多様性に触れることで、国際人として求められる能力を的確に理解し、自ら国際的に行動できる実践力を身に付けるとともに、自身のキャリア(留学も含む)について考える機会を得ることもできる。</p> <p>さらに、海外短期研修後は、学生の学業へ対する取り組み姿勢や国際観が向上する効果も期待できるものである。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域資源創成学部地域資源創成学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門発展科目 コースアドバンスト科目群 地域産業創出コース科目	生物学総論	<p>【授業のねらい】</p> <p>生物学総論では、生物学の基礎的な知識を活用して、私たちの身近な問題に生物学の知見がどのように関与してきたかを理解する。さらに、環境問題の解決のために生物学の知見をどのように応用していくかということや、バイオテクノロジーの利用の是非などについて考察し議論をおこなう。</p> <p>【授業概要】</p> <p>生物学で得られてきた知見をただの知識として覚えるのではなく、その知識を活用して、現代社会で問題になっている事柄について論理的に根拠をもって考察することを求めていきたい。そこで講義では基礎的な生物学の知識を講義したのちに、その知識をもとに学生同士での考察や議論をおこなっていく。例えば、近年化石燃料に代わるエネルギー源としてサウキビやキャッサバ由来のバイオエタノールが注目されているが、世界で必要なエネルギー量や、バイオエタノールの単位面積あたりの収量などのデータをもちに、耕地の持続性や収量の不確実性なども考慮しながら、必要な耕地面積などについて考察していく。</p>	
	作物栽培学	<p>【授業のねらい】</p> <p>作物栽培を理解するためには、作物の植物としての特徴に加え、作物の用途や、栽培地の気候・土壌条件についても理解する必要がある。そこで講義では植物生理、気候、土壌条件などの基礎知識を説明し、その知識をもとにそれぞれの環境で栽培作物が異なる理由や、同じ作物でも異なる栽培方法がとられている理由や、地域によって育種目標が異なっている理由などを考察してもらおう。</p> <p>【授業概要】</p> <p>最初の2回の講義では、作物栽培にかかわる共通項目として、気温・降水量・土性・土壌pH・土壌ミネラル含量などの違いが植物の生育におよぼす影響について説明する。第3回の講義では代表的な作付体系や栽培技術について説明し、それらが発達してきた環境的背景について考察させる。その後の各論では、最初3回の講義で学んだ作物栽培の基礎知識をもとに、それぞれの作物が、どのような環境で、どのような方法によって栽培されているかを学び、さらにその理由についても考察してもらおう。講義においては知識を活用して、考察し議論することを学生に求めていく。</p>	
	家畜生産学	<p>【授業のねらい】</p> <p>日本を主として、どのような動物が産業動物(家畜)として利用され、どのような手法で家畜が生産・飼養管理され、畜産物が生産されているかを学ぶ。これらのことから、より効率的で安心安全が担保できる生産技術の展開を自らが考え出すことを目標とする。</p> <p>【授業概要】</p> <p>スライド等を用いて主要な家畜の品種の特徴を講義する。次に家畜の生産方法(繁殖技術)、誕生してから畜産物を生産するまでの飼料給与方法・家畜の取り扱い方法・畜舎などの一連の飼養管理方法や飼料の果たす役割について反芻動物と単胃動物の違いなど各畜種ごとに講義する。また、衛生管理の重要性と損益について認識する。さらにブランド化に向けた取り組み事例を紹介し、ブランド化のためには生産技術として何が必要かを講義する。これらを踏まえ、最終授業では畜産振興のための問題点の発掘と解決策についてグループで討論しとりまとめて発表する。</p>	
	栽培・家畜生産・食品製造実習	<p>【授業のねらい】</p> <p>(近藤)作物の栽培方法を実践演習により学ぶ。実習を通じて実践できることを目標にするだけでなく、栽培技術の理論的背景を理解してもらおう。実践と理論を学ぶことで、他の作物や地域での異なる栽培方法に関して理解することも可能になる。</p> <p>(撫)家畜の生産技術について、どのような手法で家畜が生産・飼養管理され、畜産物が生産されているかを実際の家畜を用いた実践演習を行い学ぶ。実際の飼養管理を学んだ上でのブランド化等への展開を自ら提案できることを目標とする。</p> <p>(山崎)食品開発の現場において、どのような手法で食品が開発・分析・評価されているかを学ぶ。実習を通じて食品の分析・評価を実践することで、食品製造現場における開発や品質管理を体感し、解析結果を基にした高付加価値食品や地域ブランド食品のデザイン手法を学ぶことを目標とする。</p> <p>【授業概要】</p> <p>(近藤)様々な作物の栽培技術に関して、圃場で実際に作業を行いながら学ぶ。具体的には、圃場の準備(施肥・石灰施用)・播種・移植・挿し木繁殖・接ぎ木繁殖・受粉・農薬散布・収穫・収穫後の取り扱い方法などを実習する。栽培技術を学ぶにあたってはその理論的背景についても理解してもらおう。</p> <p>(撫)家畜の体型的特徴、繁殖技術、哺育・育成から畜産物を生産するまでの飼料給与方法・家畜の取り扱い方法、畜舎などの一連の飼養管理方法や飼料の特徴、糞尿処理方法について実際の家畜や施設を用いて実習する。最終授業ではブランド化に向けた新たな方策の提案をグループでKJ法などを利用して具体策を発掘する。</p> <p>(山崎)宮崎地域の伝統野菜である糸巻きダイコンを用いて、サンプル処理から成分分析(水分量、糖度、ビタミンC量の測定)、データ解析までの一連の手法を実習する。最終授業では、得られた解析結果を基に、当該サンプルの特徴を生かした食品を各グループでデザインし、プレゼンテーションを通して発想の共有を図る。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(地域資源創成学部地域資源創成学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門発展科目 コースアドバンス コース科目群 地域産業創成コース コース科目	農業技術・経営学	<p>【授業のねらい】 農業の技術・経営の現状について解説するとともに、農業経営へのマネジメント理論や経営分析等の諸手法の適用について修得する。</p> <p>【授業概要】 はじめに、農業へのIT技術の導入をはじめ多様化・高度化する農業技術・経営イノベーションの現段階について解説する(第8回まで)。第9回以降は農業経営学を中心に学ぶ。まず、農業技術を経営的視点からとらえることの重要性を理解したうえで、農業経営のコスト・収益や経営分析・経営計画の基礎知識、手法を学ぶ。さらに、農業経営におけるマーケティング戦略の重要性を踏まえ、革新的な経営を行っている農業経営体の事例を研究し、実践的な学びを促す。</p> <p>&lt;オムニバス方式/全15回&gt; (33 宇田津 徹朗/2回) ①イントロダクション、農業技術の成立と変遷(1)ー農業技術の成立と社会形成ー、②農業技術の成立と変遷(2)ー社会の発達と技術選択ー (9 近藤 友大/2回) ③作物生産における最先端技術(1)、④作物生産における最先端技術(2) (3 撫 年浩/2回) ⑤家畜生産における最先端技術(1)、⑥家畜生産における最先端技術(2) (74 梶島 芳徳/2回) ⑦農業生産現場におけるIT技術導入の現状と事例(1)、⑧農業生産現場におけるIT技術導入の現状と事例(2) (43 山本 直之/7回) ⑨農業技術と経営的評価、農業における費用と収益(1)、⑩農業における費用と収益(2)、⑪農業経営の分析と計画(1)ー財務諸表分析の基礎ー、⑫農業経営の分析と計画(2)ー損益分岐点分析ー、⑬農業経営におけるマーケティング戦略、⑭革新的農業経営の事例(解説)、⑮学生による発表会とまとめ</p>	オムニバス
	食料・農業経済学	<p>【授業のねらい】 この講義では、日本と世界の食料・農業・農村に関する基本的な問題を学ぶとともに、経済学をベースに理解を深めることを目標とする。</p> <p>【授業概要】 私たちの身の回りには、多くの“食料”があふれている。食料の背景には“農業”があり、農業生産や農業者の生活の基盤としての“農村”がある。この講義では、日本と世界の食料・農業・農村に関する基本的な問題を学ぶとともに、経済学をベースに理解を深めることを目標とする。 通常は、講義形式によって行う。毎回、講義のはじめに小テストを行い、理解・到達状況を確認しながら進める。また、主体的に学習してもらうために、講義の回数には、学生による報告の場とする。具体的には、学生を数名ずつのグループに分け、各グループが割り当てられたテーマに基づいて資料を調べ、報告準備を行い、発表する。</p>	
	国際農業論	<p>【授業のねらい】 講義では、比較農業の立場から国際的な視野で農業をとらえ、日本農業を相対化して分析するための複眼的な視野を養うことを目標とする。</p> <p>【授業概要】 農業は、世界各地でその風土と適合し、多様なかたちで発展してきた。また、世界の食と農をめぐっては、様々な問題が山積しており、これを解決していくことが大きな課題となっている。この講義では、比較農業の立場から国際的な視野で農業をとらえ、世界各地の農業に関する様々な視点からの接近方法を習得するとともに、複雑で多様な分野にわたる農業問題を分析するための複眼的な視野を養うことを目標とする。 通常は、講義形式によって行う。毎回、講義のはじめに小テストを行い、理解・到達状況を確認しながら進める。講義のうち数回は、テーマに関する概説の後に、関連の話題を用いたグループワークを行う。</p>	
	食品学総論	<p>【授業のねらい】 食品には、栄養機能、嗜好機能、生体調節機能の三つの機能がある。食品を設計する上で、食品の各機能を理解し、栄養成分特性や開発技術について理解することは極めて重要である。本講義では、食品機能の中でも最も重要な栄養機能に関わる、水分・灰分・炭水化物・タンパク質・脂質・ビタミンを中心に、これらの物質の役割や特性について学ぶ。また、食品添加物をはじめ、食品を加工・保蔵する際に重要な技術や、遺伝子組み換え技術について学び、フードビジネスを推進する際に必要な知識を習得することを目的とする。</p> <p>【授業概要】 本講義では、まず、私たちが口にする“食”についての基本を理解し、続いて生命活動を維持するために必要である栄養機能、味や香り等食品を摂取する際に感じる美味しさを表す嗜好機能、生活習慣病等の予防や回復等に関与する生体調節機能の三つの機能について重点的に学び、その機能を生かした食品の開発手法について学ぶ。次に、フードビジネスを推進する際に重要となる食品加工の観点を取り入れ、炭水化物やタンパク質をはじめとした食品主要成分についてその特性や取扱い方法(低温管理が必須、遮光が必要等)、生体内での役割を理解する。更には、加工や保蔵等の技術について学び、食品製造現場において重要なポイントを理解する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域資源創成学部地域資源創成学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 発 展 科 目	地 域 産 業 創 出 コー ス 科 目	フードビジネスⅠ	<p>【授業のねらい】</p> <p>近年、地域の農畜林水産物を生かしたフードビジネスの振興が全国的に推進されている。宮崎県においても、総合的な食関連産業の成長産業化を目指して、本県の基幹産業である「食」を基軸とした「みやざきフードビジネス振興構想」が開始されており、フードビジネスを牽引する人材が求められている。本講義では、食品学総論で習得した「食」に関する役割や特性を理解した上で、食の安全確保、高付加価値化、食品加工等の観点から、地域の食品素材をフードビジネスへと繋げていく手法を学ぶことを目的とする。</p> <p>【授業概要】</p> <p>本講義では、まず、食品を生産・加工・流通する上で遵守する必要がある食品衛生法等関連法規を学ぶ。特に、衛生管理については具体的な食品事故事例を取り上げ、その重要性を理解する。続いて、フードビジネス市場で注目される健康食品に焦点を当て、その種類や市場性等について学び関連知識を習得する。続いて、食品の品質評価・官能検査について学ぶことで、広く市場に受け入れられる食品の開発方法を学ぶとともに、高機能食品の開発や地域農産物を用いた食品の開発について具体的な事例を取り上げ、開発手順を理解する。最後に、食肉・乳製品や缶・瓶詰類等の具体的な加工方法について学び、実現場での食品製造過程で重要なポイントを理解するとともに、宮崎大学の食品開発事例について学ぶ。</p>	
		フードビジネスⅡ	<p>【授業のねらい】</p> <p>本科目では、地域資源を活用した商品開発や製造・販売について、食料経済、デザイン・製品開発、食品製造、マーケティング、コンテンツプロデュースといった多様な視点から知識を習得するとともに、具体的な商品企画を立案し、かつそれを発信する能力を身につけることを目標とする。</p> <p>【授業概要】</p> <p>近年、地域の農産物等を活用した商品開発が全国各地でみられ、成功事例がとりあげられることも少なくない。しかし、「地元でとれた食材を使っていいものを作りました。食べてください。買ってください」と言ってみても、簡単に売上が伸びるわけではない。この講義では、フードビジネス市場下の競争で生き抜いていく能力を身につけるために、多様な視点から新商品開発における基本的な考え方や手法について学んでいく。</p> <p>講義は、フードビジネスに関連する複数の専門教員によるオムニバス形式で行う。また、グループワークによって、地域資源を活用した商品開発企画を立案し、授業の最後に報告する。これらを通じて、課題解決に主体的に取り組む姿勢や思考方法などを身につける。</p> <p>&lt;オムニバス／全15回&gt;                  (⑥ 西和盛／5回)                  ①フードシステム：フードビジネスをとりまく環境と構造、②フードシステムと経営戦略：成熟社会と食料消費、経営戦略の基本的な考え方と方法、③グループワーク：現状把握を行い、企画の方向性について検討する、⑧グループワーク：地域資源を活用した商品企画案を検討する、⑬グループワーク：マーケティング戦略の検討およびプレゼン資料の作成                  (⑤ 宮木健二／2回)                  ④商品開発1：製品戦略の全体像、⑤商品開発2：食品とデザインイノベーション                  (⑪ 山崎有美／2回)                  ⑥商品開発3：食品の製造、開発と品質評価、⑦商品開発4：食品開発における留意点（法令、知財など）                  (18 土屋有／2回)                  ⑨マーケティング1：マーケティング戦略の基本的な考え方、⑩マーケティング2：実例を用いたマーケティングのプロセス                  (⑧ 田中雄之／2回)                  ⑪マーケティング3：メディアコンテンツを用いたマーケティング手法、⑫マーケティング4：ダイレクトマーケティングにおける現場演出や場作り                  (⑥ 西和盛・⑤ 宮木健二・⑪ 山崎有美・18 土屋有・⑧ 田中雄之／2回) (共同)                  ⑭プレゼンテーション(1)、⑮プレゼンテーション(2)</p>	オムニバス
		フードコンシャスネス論	<p>【授業のねらい】</p> <p>本科目では、「食べ物」を単なる食材としての食品学的視点や栄養学的視点だけでなく、その「食べ物」を生み出した気候・風土などの環境や文化的背景を理解し、五感を使って味わう「食を意識すること（フードコンシャスネス）」の視点・方法等について学修する。</p> <p>【授業概要】</p> <p>①食と貧困、食と環境など食に関する今日的課題や、行事食、郷土料理などの民族が伝承してきた食文化とその文化的背景、さらにその食べ物を生み出した気候・風土についても理解を深める。                  ②フードコンシャスネスに関わる事例研究や、食を意識し表現する実践を通して、私たちはなぜ食べるのか、何を食べるのか、どのように作られたのかなど「食を意識すること（フードコンシャスネス）」の視点・方法等について学修する。                  ③グループ発表と討議を通して、フードコンシャスネスの意義・方法についての理解をはかる。</p>	
		宮崎食文化論	<p>【授業のねらい】</p> <p>宮崎の地域文化を知る！人間社会が長年培ってきた地域文化の諸相、とりわけ人間生活に重要な飲食文化について、宮崎県域から始めてよりグローバルな地域に至るまで具体的な事例を取り上げて、文化とその地域的背景など多面的な理解を深めさせる。さらに、地域文化の活用法について考えさせる。</p> <p>【授業概要】</p> <p>本講義では、宮崎県域の伝統的地域文化、中でも人間にとって最も重要かつ不可欠な飲食文化の具体的な展開を例に、それらが形成されてきた歴史的背景・地域風土とも絡めて解説していく。伝統的な地域文化は、時代の変化と担い手の高齢化などを理由に消失の危機にあるものが多く、一旦失われると、その復元は極めてむずかしい。講義では、長年培われてきた地域文化の持つ意義を再確認・再評価し、地域活性化の核としての活用の可能性を探っていくことで、文化論の新たな展開について考察していく。講義で取り上げる地域も宮崎県を事例とした話から説き起こし、隣県である熊本、大分県を含む九州地方、さらに日本、世界各地の事例にも言及できると考えている。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域資源創成学部地域資源創成学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門発展科目 コースアドバンスト科目群 地域産業創出コース科目	風景と景観論	<p>【授業のねらい】                      ・公務員や企業、コンサルタント等、地域づくりの人材養成として必要な景観工学・風景デザイン論の基本的知識・考え方、方法・デザイン論、景観法と景観計画、歴史まちづくり法と歴史的風致維持向上計画、文化財保護法と重要文化的景観・重要伝統的建造物群保存地区の計画、全国や世界各地の景観まちづくりの先進事例等を学習する。</p> <p>【授業概要】                      景観、風景の意味を学習して、生活環境の向上のため、美しく良好な景観をいかに保全、デザインしていくかということの方法論を体系的に学ぶ。景観法を習得して景観行政施策や景観デザイン論、各種都市景観、農村景観等のデザイン手法、世界・全国の景観先進事例、行政施策、景観まちづくり等を学ぶ。景観デザイン演習も授業で実施する。パワーポイントによる講義を実施して、カラー映像の先進事例等の画像を見せる。アクティブ・ラーニングを取り入れ、クイズ形式での回答やデザイン演習、ワーキングも取り入れる。また毎回の講義には、最初に講義の目的と構成、最後に締めや重要ポイントを整理し、次の予習ポイントを話す。</p>	
	観光と地域振興	<p>【授業のねらい】                      ・地域社会が持続可能であるためには、収入を得る機会、雇用の機会が必要である。観光は、自然、農村、都市などの地域資源を総合的に結集させ、地域の収入、雇用を確保するための手段となる重要なものであることを学ばせる。また、観光は、収入、雇用の機会にとどまらず、観光客に褒められることで地元の人々の誇りや郷土愛を再確認したり、遠来の人と交流することで見聞を広め、世界の平和に草の根レベルで貢献したりするといったソフトパワーも有することを学ばせる。</p> <p>【授業概要】                      観光の現状について、データや国の政策、観光の意義など観光に係る基本的事項を学ばせる。観光による地域振興は、一般に考えられているほど容易ではない。特定の市場を狙ったマーケティングや、観光地域振興成功例に共通する取り組み手法(コンテンツ、マーケティング、ロジスティックスの3要素)を学ばせる。また、グリーンツーリズム、農村、都市計画、交通の専門家からの講義により、観光について視野広く学ばせる。その上で、日本、世界の観光による成功事例から、観光による地域振興の取り組み方のもの考え方、手法、実務、困難さ、成功の陰には献身的かつ継続的に地域に貢献してきた人たちが存在することを学ばせる。</p> <p>&lt;オムニバス/全15回&gt;                      (② 吉田雅彦/12回)                      ①ガイダンス、②観光の現状、③観光の意義と地域活性化との関係、④観光による地域振興とは(地域振興で狙う市場、観光による地域活性化施策の方法論)、⑤観光による地域振興とは(観光地域振興成功例に共通する取り組み手法)、⑥⑦宮崎とグリーンツーリズム(外部アドバイザー(実務担当者)を招いて)、⑧農村と観光、⑨日本の観光地域振興の成功事例(飛騨高山、直島)、⑩日本の観光地域振興の成功事例(草津、別府、湯布院)、⑪海外の観光地域振興の成功事例(ハワイ、スイス)、⑫観光による地域振興の取り組み方(まとめ)                      (7 熊野稔/2回)                      ⑬道の駅、ポケットパークと観光、⑭景観、中心市街地など観光まちづくり                      (① 出口近士/1回)                      ⑮交通と観光</p>	オムニバス
	照葉樹林保全活用論	<p>【授業のねらい】                      ・地域づくり・地域産業創出の優良事例から、その具体的な手法を学習する。                      ・自然環境・資源を基盤にした、持続可能な地域づくり・地域産業創出の考え方を習得する。                      ・地域の課題が学生自身に関わる課題でもあると捉える主体的な態度を養成する。</p> <p>【授業概要】                      地域産業創出コースで学ぶフードビジネス及びツーリズムに地域をあげて取り組む先進事例として宮崎県綾町を取り上げ、地域資源を活用した地域産業創出の実践について学ぶ。照葉樹林の保全からユネスコ・エコパーク指定に至る自然資源をベースとした地域づくり、ツーリズムの取り組み、有機栽培や産直販売を軸とした農業振興の取り組み等について学ぶ。特に、それぞれの取り組みで中心的役割を果たしてきた実践者を外部講師として迎え、これまでの試行錯誤、到達点と将来に向けた課題を開き取り、現場レベルの実態を理解する。</p> <p>&lt;オムニバス方式/全15回&gt;                      (86 大地俊介・⑩ 芦田 裕介/11回) (共同)                      ①イントロダクション、②綾町の地域づくり概論(内発的發展)、③現地エクスカーション(照葉樹林トレッキング、農業観光拠点施設見学)(外部アドバイザーを招いて)、④有機農業(1)循環型地域社会の形成、⑤有機農業(2)有機農業・産直販売の地地的実践(外部アドバイザーを招いて)、⑥オルタナティブ・ツーリズムと都市農山村交流、⑦環境保全のための取組みと諸制度、⑧ユネスコ・エコパークと住民自治(外部アドバイザーを招いて)、⑨アクティブ・ラーニング(1)グループ討論による政策課題の抽出、⑩アクティブ・ラーニング(2)リサーチ結果の共有、⑪アクティブ・ラーニング(3)学生による政策提案コンクール                      (33 宇田津 徹朗/1回)                      ⑫照葉樹林文化とその東アジア的ひろがり                      (86 大地 俊介/2回)                      ⑬照葉樹林と林業(1)森林利用の歴史、⑭照葉樹林と林業(2)官民協働プロジェクトの実践                      (41 西脇 亜也/1回)                      ⑮照葉樹林再生の生態学</p>	オムニバス



授 業 科 目 の 概 要			
(地域資源創成学部地域資源創成学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門発展科目 コースアドバンス 科目群	地域産業創成 コース科目	デザインプランニング	<p>【授業のねらい】</p> <p>将来、地域に根ざした経営者やマネジメント人材として活躍するために、今後、「創造性やデザイン」をより活用していくことがますます求められていく。職種を問わず、プロダクト(製品)やプロモーション(広報宣伝)関連事業におけるクリエイティブ企画や、デザイナー・クリエイターへの理解と協調などの実務的観点からも、2D、3Dによる視覚表現技術の仕組みや基礎操作技術の習得は、プレゼンテーション力向上とともに自身の大きな強みになる。これは社会において、人的資源としての経営資源ともなり、デザインに関わるスムーズなコミュニケーションが可能になるなど、大きな経験価値をもたらすものと考えられる。自分の独創的なアイデアを刺激し、企画、創造する楽しさとデザインの重要性を「実際に手を動かす」行為の中で体得しながら、より高度な技術獲得や地域への視野と関心拡大を目指すものとした。</p> <p>【授業科目の概要】</p> <p>本講義では、デザイナー等が使用するクリエイティブ関連の専門的ソフトウェアの基礎操作や、造形的な作業を初歩から実際に段階的に習得していく過程を経験していくことを目的とする。2D、3Dなどのデザイン系アプリケーションの基礎操作方法を学びながら、宮崎の地域資源をテーマとしたパッケージデザイン、製品の立体デザインなどの課題制作によって、「機能的・美しさ・メッセージ性」について考えながら、視覚表現能力と造形的感覚などを養っていく。同時に、「事例に見るダメなデザインと響くデザイン」や、色彩・立体・文字・バランスなど「デザインのルール」について解説する。尚、本科目は3年次前期「地域商品プロデュース」科目受講に繋がるベーシック科目としても位置づける。</p>
		地域商品プロデュース	<p>【授業のねらい】</p> <p>「宮崎県の地域資源や伝統産業のリ・デザインの可能性」について、課題や可能性の抽出から仮説を設定し、マーケティングをベースとした「新製品開発企画プロデュース」のチームプロジェクトを推進しながらプロデュースを学ぶ。地域固有の資源や素材、企業・個人が待つ技術などの「強み」、ユニークかつ独創性あふれるアイデアを活かした企画立案と製品化、広報メディア活用、販路開拓のための総合的な提案を通じ、デザインマネジメントプロジェクトを体系的に学びながら、地方産業と地域の問題解決策を思考する。</p> <p>【授業概要】</p> <p>地方の地域資源活用によるデザイン開発を交えた具体的な商品開発の流れを体感してもらい、宮崎大学による宮崎ならではの「新商品開発」へ繋がる新しい価値の創造に挑戦する。付箋紙を活用した自由なキーワードメモ、ラフスケッチなど実際に絵に描いてみることや、紙、粘土、レゴブロックなどによるモデリング、各種CGソフト、3Dプリンタの活用なども含め、プランナーやデザイナー、クリエイターの初期手順や造形的ツール利用をも体験していく。また、サンプルとなる素材を五感で感じ取ることや実務のオペレーションを平行し、他者へのより魅力的なプレゼンテーションやプロジェクトマネジメントの方法を体得できるよう、グループワークのなかで互いに協調し、企業や行政に向けた具体的な成果物をまとめている。</p>
		地域創成コンテンツ開発	<p>【授業のねらい】</p> <p>地域資源を活用したコンテンツ開発＝地域資源プロデュースについて学ぶ。概論と小規模な範囲でのプロデュース経験を経てオリジナルコンテンツ開発を行うための経験値の取得を目指す。また、習得後、自ら、別資源を用いてコンテンツプロデュースができるような応用力も身につける。</p> <p>【授業概要】</p> <p>今は小さいかもしれない、目の目を浴びていない地域資源(0.001)をしっかりと見つけ、それをしっかりと企画・コンテンツ(1)に育て、広く世の中に発信し根付かせる(100)ことを学ぶ。(0.001→100)またコンテンツを実際に開発していく過程で大事なネットワーク構築に関しても学ぶ。</p> <p>地域創成コンテンツを多く輩出している「映像」分野の過去事例(フィルムコミッションや地域映画、地域映像など)から疑似体験をするように体験を伝授する。また、宮崎大学をフィールドに実践的な機会を作り、トライアンドエラーを繰り返しながら経験する。地域創生のロールモデルの体験をし、他資源、他エリアなどへの応用への基礎を完成させる。</p>
		地域産業創成実践Ⅰ	<p>【実習のねらい】</p> <p>実習先の現状調査等を行い、地域資源理解力を高めるとともに、課題解決のための地域資源活用企画力を身につける。</p> <p>①実習先の現状等について適切に状況を把握し、必要なマーケティング調査をグループで協力して実行できる。</p> <p>②調査結果を整理分析することで課題を見いだし、様々な発想と知識に基づいて、戦略を複数構築することができる。</p> <p>③実習先の担当者と協働で戦略を改善し、実践できるプロジェクトにすることができる。</p> <p>【実習概要】</p> <p>少人数グループで、地域自治体、企業から掘り起こした課題を整理・分析し、その解決策を提案するとともに、提案に対する評価を行い、実践に向けた改善案を作成する。</p>
		地域産業創成実践Ⅱ	<p>【実習のねらい】</p> <p>プロジェクトの実践により、地域資源活用実践力を身につける。</p> <p>①実践に向けた具体的な企画や計画(ロードマップ)を様々なリスクも想定し、策定することができる。</p> <p>②グループや実習先の担当者との協働でプロジェクトを実践するとともに、突発的に発生する問題等にも柔軟に対応し、統率力をもって粘り強くプロジェクトを実行できる。</p> <p>③実践後には、的確にプロジェクトについて自己評価できる。</p> <p>【実習概要】</p> <p>グループの企画や課題解決策について、実際に地域や企業の方々と協働してプロジェクトを実践することで、マネジメント力を養うとともに、地域資源活用の実際を知り、その評価(自己評価、地域や企業からの評価)を行う。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(地域資源創成学部地域資源創成学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 発 展 科 目 コ ー ス ア ド バ ン ス ト 科 目 群	地域産業創出コース科目 地域産業創出実践Ⅲ	<p>【実習のねらい】</p> <p>プロジェクトの経験や評価結果等を踏まえ、最終戦略や報告書を作成し、プレゼンテーションできる力を身につける。</p> <p>①実践経験や評価結果と専門科目で得た知識を踏まえ、最終的な戦略をグループでまとめることができる。</p> <p>②1年半の実習での取組や成果について、最終報告レポートを作成することができる。</p> <p>③報告会での確かなプレゼンテーションができる。</p> <p>【実習概要】</p> <p>地域産業創出実践Ⅱの結果を踏まえ、その評価結果や各個人が身に付けた異分野的視点も交えながら、地域や企業の方々と共に改善プランを作成する。</p>	
	循環型社会形成論	<p>【授業のねらい】</p> <p>本講義では、持続可能性という概念を理解させ、その実現のために必要な知識を身につけさせることを目的としている。特に、行政・市民・企業の取り組み、解析ツールの基礎、物質循環の捉え方などを中心に学ばせて、社会において活用することが出来る人材の育成を目指す。</p> <p>【授業概要】</p> <p>地球規模の環境問題から都市や地方のごみ問題まで、循環型社会の形成は環境分野における重要課題となっている。本講義では、持続可能性の概念と、社会の中で実現していくための取り組みや、物質循環を把握するための解析ツールの基礎について学ぶ。また、地球環境や地域環境、生活環境における物質循環のあり方について考える。</p>	
	地域・防災まちづくり	<p>【授業のねらい】</p> <p>地域資源を活用した持続性のある「住んでよし・訪れてよしの地域まちづくり」の計画・マネジメント、及び自然災害や復旧・復興対策、防災計画、防災まちづくりの基本素養を習得すると共に、行政、まちづくりの現場において議論されている最新の論点を学習する。講義理解と演習、期末試験、防災まちづくりに関する1課題のレポート作成・提出で成績評価する。</p> <p>【授業概要】</p> <p>地域まちづくりの計画とマネジメントの手法を前段で学習し、まちづくりの事例体系や組織、方法論、エリアマネジメント等を習得する。後段では、それを活用した各種自然災害と対策、防災まちづくりの基本体系や手法を学習する。宮崎県の自然災害と地域防災計画及び防災危機管理行政について宮崎県危機管理課の職員による講義を実施し、実社会や行政での実務を把握する。その後、各災害と対策、災害対策基本法、自助・共助・公助のまちづくりの体系や手法、予防対策と応急対策、避難方法、災害救助法、復旧・復興対策と被災者生活再建支援法、防災まちづくりと津波防災地域づくりに関する法について学ぶ。阪神淡路大震災や東日本大震災の復旧や復興計画の事例も検証しながら、宮崎県の対策への考察を考えさせる。</p>	
	地域創造コース科目 都市計画学	<p>【授業のねらい】</p> <p>公務員や企業、コンサルタント等、地域づくりの人材養成として必要な地域計画・都市計画の歴史、基本的知識・考え、方法論、計画論、全国や世界各地の先進事例等を学習する。</p> <p>講義理解と演習、期末試験、1課題のレポート作成・提出で成績評価する。</p> <p>【授業概要】</p> <p>都市計画とは、都市の健全な発展と秩序ある整備を図るための土地利用、都市施設の整備、市街地開発事業に関する計画であり、理想的な都市を実現していくための手段である。本講義では、都市・都市計画とは何かに始まり、都市と都市計画の世界史と日本史、都市計画法等の体系、調査計画方法論、マスタープラン、土地利用、都市施設の整備、市街地開発事業、都市交通計画、公園緑地計画、供給処理施設計画、景観デザイン、全国の都市計画の先進事例を検証する。パワーポイントによる講義を実施して、演習やアクティブ・ラーニングを取り入れ、クイズ形式での回答も取り入れる。また宮崎県都市計画課の職員による宮崎県の都市計画の動向と課題の講演も取り入れる。毎回の講義には、最初に講義の目的と構成、最後に締めや重要ポイントを整理し、次回の予習ポイントを話す。</p>	
	コミュニティ交通計画	<p>【授業のねらい】</p> <p>地方都市や過疎地域では、特に交通弱者と呼ばれる高齢者や子供の移動手段の確保が必要である。本授業では、地方都市の近隣地区での歩車共存型の道路空間のあり方、過疎地域などの交通不便地域や、コミュニティでの交通システムのあり方を考えることができる、実践に繋げることのできる能力を育成する。</p> <p>【授業概要】</p> <p>道路の交通機能、交通流特性、交通調査、四段階交通需要推定法などの交通計画の基礎知識や、地方におけるバスやLRTなどの公共交通システムの現状や課題を学ぶ。さらに、歩車共存道路、交通バリアフリー法、ユニバーサルデザイン、高齢化社会でのモビリティや自転車交通などのコミュニティ交通政策のあり方、地方都市や中山間地域の過疎地域におけるコミュニティバス等、交通不便地区の公的交通安全システム構築、コミュニティゾーン形成、交通安全施策などの今後のあり方を実践事例から学ぶ。</p>	
まちなか再生論	<p>【授業のねらい】</p> <p>地方都市の中心市街地では空洞化が進み、まちなか再生が必要になっている。本授業では、中心市街地での公共空間のあり方、市街地整備方法、再生手法の知識・技術について事例を交えながら学ばせる。</p> <p>【授業概要】</p> <p>講義では、中心市街地の活性化は必要か？公共空間は必要か？といった根源的な問題を学生に問いながら、駅前地区再開発プロジェクト、商店街再生プロジェクトをケーススタディとして、民間、市民、行政の協働によるまちなかの再生やエリアマネジメント(地域の将来像・プランの共通化、地域の活性化、空き家・空き地を利用した新規立地誘導、地区景観協定、コミュニティ形成)の制度や技法等を学ぶ。</p>		

授 業 科 目 の 概 要				
(地域資源創成学部地域資源創成学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 発展 科目	地域 創造 コー ス 目 録	農山村社会学	<p>【授業のねらい】 現代日本の農山村社会においては、人口減少に伴う過疎化や高齢化が進行している。近年では、集落内での社会生活の維持が困難となる「限界集落」の存在が注目を集め、その対応をめぐって社会的な議論が活発化している。本講義では、こうした農山村社会の状況をどのように理解し、研究すればよいのかを考える。</p> <p>【授業概要】 主に日本国内の農村社会学の議論や農山村社会の事例を取り上げて解説し、農村社会を取り巻く諸問題を理解することを目指す。ただし、グローバル化が進む現代社会においては、ある問題を日本という枠組みだけで考えることはできない。ゆえに、欧米の農村社会学の議論や国外の事例も紹介しつつ、農山村社会はどのように変化してきた(いる)のか、誰にとって何が問題なのかということ、広い視野で考える講義にする。</p>	
		廃棄物と資源リサイクル	<p>【授業のねらい】 現代の廃棄物は種類が多様化し、発生から再生利用、最終処分に至るまでに、空間的に移動を繰り返し、その間に物理的・化学的な変化が加えられている。そこで、社会科学・自然科学の両面から廃棄物処理とリサイクルを解説し、その全体像について学ばせて、学際的に廃棄物処理・リサイクルシステムを考えることが出来る人材の育成を目指す。</p> <p>【授業概要】 適切な廃棄物処理は、衛生的で快適な生活環境を確保するために必要不可欠であり、またリサイクルは循環型社会を形成する上で非常に重要な課題となっている。本講義では、廃棄物処理・リサイクルシステムにおける適切な処理・処分・リサイクル技術の基礎知識と、それらの技術を活用するための政策について学んだ上で、宮崎県の廃棄物・リサイクルのあり方について議論する。</p> <p>&lt;オムニバス/全15回&gt; (12 戸敷 浩介/10回)</p> <p>①循環型社会における廃棄物処理と資源リサイクル(講義内容のガイダンス含む)、②資源循環・適正処分のための法制度と現況、③廃棄物の焼却処理とエネルギー回収の技術、④一般廃棄物処理システムの諸課題、⑤リサイクル政策と拡大生産者責任、⑥容器包装リサイクル法とプラスチックリサイクル、⑦自動車リサイクルと国際資源循環、⑧開発途上国の都市廃棄物問題(後半にグループ分け、課題設定)、⑨宮崎県の廃棄物・リサイクル施策(グループディスカッション)、⑩宮崎県の廃棄物・リサイクル施策(グループ発表) (44 土手 裕/1回)</p> <p>④廃棄物の埋立処分の意義と技術 (75 大島 達也/1回)</p> <p>⑨廃電子機器の流通と金属回収法 (87 関戸 知雄/1回)</p> <p>⑩宮崎県の廃棄物資源化技術と物質フロー (76 塩盛 弘一郎/1回)</p> <p>⑪焼酎廃液と食品加工廃棄物の現状と処理状況 (77 廣瀬 遵/1回)</p> <p>⑫廃棄物と資源リサイクルの環境応用化学</p>	オムニバス
		地域資源と再生可能エネルギー	<p>【授業のねらい】 自然が豊かな宮崎県は、日本国内では再生エネルギーや自然資源に比較的恵まれている。それらの資源の有効利用を促進するため、その利活用技術や長所・短所などの特性について習熟し、効果的な政策提言を行うことが出来る人材を育成することを目指す。</p> <p>【授業概要】 資源に乏しい日本にとって、資源やエネルギーを如何に確保するかは、最重要課題の一つである。本講義の前半では、これまで日本経済を支えてきた化石燃料と原子力の特徴と問題点を踏まえた上で、再生エネルギーの特性とその利活用に関する基礎知識を学ばせる。また、本講義の後半では、資源の有効利用に関して、水、食、希少資源を取り上げて解説すると共に、宮崎県における地域資源の利活用について議論する。</p> <p>&lt;オムニバス/全15回&gt; (12 戸敷 浩介/10回)</p> <p>①地域における資源・エネルギーの論点(講義内容のガイダンス含む)、②資源・エネルギー政策の変遷、③エネルギー需給の現状、④再生可能エネルギー政策における課題、⑤食料自給率と農業、⑥希少資源と都市鉱山、⑦地域資源活用に向けた取り組み事例、⑧宮崎県の地域資源とは(後半にグループ分け、課題設定)、⑨地域資源の利活用政策(グループディスカッション)、⑩地域資源の利活用政策(グループ発表) (80 吉野 賢二/1回)</p> <p>④再生可能エネルギーの特性とその利活用 (46 金子 宏 /1回)</p> <p>⑤地域の日射特性と太陽集光装置による熱エネルギーの創出 (47 横井 春比古/1回)</p> <p>⑥微生物によるバイオマスエネルギーの生産 (81 菅本 和寛/1回)</p> <p>⑦地域未利用資源の有効利用技術 (48 鈴木 祥広/1回)</p> <p>⑨水資源、水利用システムと水の再生法</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(地域資源創成学部地域資源創成学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門発展科目 コースアドバンス科目群 地域創造コース科目	公共ストックマネジメント	<p>【授業のねらい】</p> <p>本格化する人口減少社会に対応していくため、自治体経営の重点・課題が、フロー改革からストック改革へと大きく転換してきている。フロー改革の取組（歳入・歳出改革、事務事業の統廃合、職員定数削減等）に限界がみえる中、今後は公共施設、インフラといった地方自治体が保有する公共ストックの改革（総量縮減、長寿命化等）を段階的・計画的に進展させることが必要となってきている。このため公共施設、インフラ等を総合的・一元的・戦略的に整備・管理運営していく公共ストックマネジメント（以下、「SM」という。）の導入と推進が、持続可能な自治体経営を実現する上で極めて重要な課題となってきている。本科目では、人口減少社会における持続可能な自治体経営のあり方を考察する視点から、SMをテーマとして取り上げ、社会経済環境の変化に対応可能な自治体経営のあり方、持続可能な自治体経営を図る上でのSMの意義や取組効果について習得することを目的とする。</p> <p>【授業概要】</p> <p>講義は、人口減少社会に対応した自治体経営やSMに係る現状・課題、具体的取組を、総合的・学際的・専門的な知見・考察を通じて習得できるよう、社会環境システム工学、財政、会計、都市計画、交流マネジメント（まちづくり）の専門教員による共同科目として実施する。</p> <p>&lt;オムニバス／全15回&gt;                      (5 桑野 齊 / 8回)</p> <p>①人口減少社会における自治体経営と公共ストックマネジメント、②公共ストックを取り巻く近年の動向、④公共ストックの現状と課題(2)ソフトの問題、⑥公共ストックマネジメントの取組と効果(1)総論、⑩グループワーク形式によるケーススタディ(2)(公共ストックの量・質の現状と課題)、⑫グループワーク形式によるケーススタディ(3)(公共ストックのコストの現状と課題)、⑬グループワーク形式によるケーススタディ(4)(公共ストックマネジメントの現状と課題)、⑭グループワーク形式によるケーススタディ(5)(まとめ:①～④からグループワークの成果をとりまとめ)</p> <p>(① 出口近士 / 2回)</p> <p>③公共ストックの現状と課題(1) ハードの問題、⑨公共ストックマネジメントの取組と効果(4) 公共施設、インフラの有効活用                      (9 入谷貴夫 / 1回)</p> <p>⑤公共ストックの現状と課題(3) コストの問題(自治体財政と公共施設・インフラの維持)                      (4 園弘子 / 1回)</p> <p>⑦公共ストックマネジメントの取組と効果(2) 経営的視点からみた公共ストックの管理                      (7 熊野稔 / 1回)</p> <p>⑧公共ストックマネジメントの取組と効果(3) 戦略的な視点によるまちづくりと公共ストック整備                      (5 桑野 齊・① 出口近士・9 入谷貴夫・4 園弘子・7 熊野稔 / 2回) (共同)</p> <p>⑩グループワーク形式によるケーススタディ(県内市町村を対象とした調査・分析と成果の作成)(1)                      (テーマ及び対象地域の選定と現状・課題の整理)、⑮まとめ(ケーススタディの成果発表と教員による講評)</p>	オムニバス
	行政学	<p>【授業のねらい】</p> <p>行政学の観点から、中央政府と地方政府について基礎的な知識の修得を目指す。特に近年日本の地方自治は大きな転機を迎えつつあることから、最新的情勢についても検討する。</p> <p>【授業概要】</p> <p>講義では、「行政」とは何であるのか、どのような構造であるのか、そしてどのように機能しているのか、という諸点へのアプローチを試みる。ここでは中央政府のみではなく、本学部と関係の深い地方行政についても扱う。</p> <p>「行政」とは、真空の中にぼつんと存在しているものではない。国家の統治機構の一角として、他の様々なアクター（憲法、法律、立法府、司法部、国民、等々）との密接な関係の中にある。そこで本講義においては、「行政」のみにその対象を絞るのではなく、より広く、周辺領域も織り交ぜつつ講義を展開していく。</p>	
	行政法	<p>【授業のねらい】</p> <p>本科目は、行政法について、その基礎知識を習得することを目的とする。</p> <p>【授業概要】</p> <p>講義では、行政法について、それがどのような理念を持っているのか、そしてどのような構造になっている、どのように機能しているのか、実例を示しながら解説する。いわゆる行政法概論の分野に加え、行政救済法、そして地方自治法の領域も範囲に含む。</p> <p>行政もそれを規律する行政法も真空の中にあるのではなく、様々な他のアクターとの関係の中にあり、その関係性の中で機能しています。そうである以上、行政法をしっかり把握するためには、より広い視野でみていく必要がある。この講義では以上の観点から、憲法や行政学の要素も適宜取り入れながら進めていく。</p>	
	コミュニティ政策論	<p>【授業のねらい】</p> <p>自主・自立型の地域社会を形成し、住民自治の拡充を図る上で、コミュニティ政策は、地方自治体の地域経営、地域政策の中で極めて重要な存在となっている。その一方で、少子高齢化・情報化・国際化などを背景に地域コミュニティを取り巻く環境は大きく変化してきており、地方自治体のコミュニティ政策には、地域の実情に即した政策の多様化や深化が求められてきている。</p> <p>本科目では、地域コミュニティやコミュニティ政策の置かれている現状・課題を踏まえながら、地方自治体が進めるコミュニティ政策の最新の取組から、まちづくりや地域活性化などの地域創造における具体的な成果を学び、現代社会における地域コミュニティの意義や社会的機能について習得することを目的とする。</p> <p>【授業概要】</p> <p>コミュニティ政策は地方自治体の多様な政策分野において取り組まれており、住民生活と密接な関係を有している。その一方で、学生などの若い世代では地域コミュニティへの関心が希薄化している現状にある。そこで授業では、(1)若者と地域社会との具体的な接点や問題を取り上げながらコミュニティ政策の基礎的な理解(第1,2回)を図った後、(2)地域コミュニティの現状と課題の理解(第3～5回)、(3)多様なコミュニティ政策の現状や課題・効果の理解(第6～12回)、4宮崎県・県内市町村のコミュニティ政策の取組の理解(第13～14回)へと進めていく。最終回(第15回)では学生間の意見交換を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域資源創成学部地域資源創成学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
コースアドバンス 専門発展科目	地域創造コース科目	地域産業政策論	<p>【授業のねらい】</p> <p>地域社会が持続可能であるためには、収入を得る機会、雇用の機会が必要である。地域の産業は収入、雇用の機会を提供している。他方、産業は常に変化する市場環境の中にあり、変化に対応し続けなければ事業を継続できない。地域産業政策は、国、自治体と産業との連携により、地域社会を持続可能にするような産業を確保する政策である。将来、企業や行政に就職する学生が、それぞれの立場から地域の産業振興に取り組むための基礎知識や、ものの考え方を学ばせる。</p> <p>【授業概要】</p> <p>地域社会が持続可能であるためには、収入を得る機会、雇用の機会が必要である。地域の産業は収入、雇用の機会を提供している。他方、産業は常に変化する市場環境の中にあり、変化に対応し続けなければ事業を継続できない。地域産業政策は、国、自治体と産業との連携により、地域社会を持続可能にするような産業を確保する政策である。将来、企業や行政に就職する学生が、それぞれの立場から地域の産業振興に取り組むための基礎知識や、ものの考え方を学ばせる。そのため、日本の地域産業政策の歴史から、どのような経済環境の下でどのような地域産業政策が採られてきたか、成功事例と言われる地域ではどのような政策を積み重ねてきたかを学ばせる。</p>	
		自治体政策論	<p>【授業のねらい】</p> <p>近年、地域間競争は一段と厳しさを増し、地域戦略や自治体政策の成否が、住民福祉の向上や地域の将来的発展に大きく影響する時代となってきた。さらに、深刻化する人口減少、少子高齢化の進展により、自治体政策の理念は大きな転換が求められ、政策的な手法についても抜本的な見直しが求められてきている。このため、自治体政策の立案・執行・評価は、行政とともに地域の多様な担い手が参加・協働し、地域の実情や課題に即した政策を共創する時代となってきた。</p> <p>本科目では、自治体政策が住民生活の向上や地域社会の発展にどのような影響を与えるのか、新たな時代の自治体政策を地域がどのように共創していくのかという観点から、政策分野・テーマ別に自治体政策の現状や課題について考察を行い、地方自治制度の理解、国・地方の役割分担、地域資源を活用した新たな自治体政策の創成などについて習得することを目的とする。</p> <p>【授業概要】</p> <p>講義では、自治体政策の具体的な理解が得られるよう、宮崎県、県内市町村、先進自治体などの取組から、自治体政策の立案・執行・評価などのプロセス、実効性のある自治体政策モデルを学ぶとともに、自治体政策を担う多様な人材・組織についても積極的に取り上げる。</p> <p>自治体政策の推進や実現に係る基本的要素である(1)政策客体、(2)政策手法、(3)政策コスト(予算確保、執行コスト等)、(4)組織・人材(行政体制、専門人材等)、(5)政策調整(企画調整、利害調整等)、(6)住民参加・協働(住民との合意形成、ニーズ把握等)、(7)政策評価(PDCAサイクル)などを総合的に俯瞰しながら、行政実務、政策実務に即した自治体政策について考察していく。また、学生が当事者意識を持って学習できるよう、「身近な生活課題と自治体政策との関係」を起点に、各回の授業を進展させて、自治体政策に対する関心や理解の深化を図る。</p>	
		自治体財政論	<p>【授業のねらい】</p> <p>受講生の出身市町村の「決算カード」(普通会計決算)や「財政状況等一覧表」の分析作業を通じて、基本的な自治体財政の構造と機能を解説する。その上で、自治体財政を取り巻く現状と地域社会における役割を理解し、受講生の市町村の実情を踏まえた今後の地方自治改革と自治体財政の課題を考える。</p> <p>【授業概要】</p> <p>地域の発展において自治体財政の果たす役割は大きい。そこで、自治体財政の機能、地方自治と自治体財政の歴史、自治体財政の構造―歳入と歳出の分析、自治体財政の指標、自治体財政の課題を学習する。その上で、受講生の出身市町村の財政データである「決算カード」(普通会計決算)と「財政状況等一覧表」を教材に実践的な自治体財政分析を行う。あわせて、市町村の人口・産業構造・地域経済・地域文化・環境を踏まえて、自治体財政の現状と課題を整理した簡便な「自治体財政報告書(白書)」を作成し、自治体財政の課題を探る。</p>	
		労働法	<p>【授業のねらい】</p> <p>「働く」「雇う」ことをめぐる法の基本的な内容について学ぶことで、ワークルールの基礎を身につけるとともに、雇用管理の初歩を学ぶ。具体的には、労働契約の締結と終了、労働時間や賃金に関する規制などについて、なぜそうしたワークルールが必要なのか、雇用管理に際してどのような点に留意すべきかについて自ら体得することを目指す。最終的には、法が社会とどのように関わり、いかに法を活用して人的マネジメントを行うのが望ましいかという、法の機能についても理解を広げる。</p> <p>【授業概要】</p> <p>ワークルールを形作る労働基準法・労働契約法等の基礎構造を学ぶとともに、実際の裁判例をめぐるディスカッションを通じて、ワークルールに基づく雇用管理の手法を体得する。労働契約に関する問題をまず扱い、次に、各種労働条件に関する問題について検討する。</p>	
		社会保障法	<p>【授業のねらい】</p> <p>少子高齢化が進むなか、今後どのように社会保障を行うべきかは、国及び地域社会において喫緊の課題である。そこで、本科目では、年金や健康保険といった各種社会保険や、社会福祉サービスを支える法的な仕組みを学び、行政が社会保障の分野で果たせる役割とその限界について考える。また、社会保障に関して国レベルで行うこと、都道府県や市町村レベルで行うことのそれぞれに着目させ、地方における行政の機能についても、明らかにする。</p> <p>【授業概要】</p> <p>なぜ社会保険制度が必要か、理解を深めた後、年金保険・医療保険に関する基本的な制度の仕組み及びそれを支える法律について、ディスカッションを交えながら学習する。その後、公的扶助及び社会福祉サービスと行政との関わりについて、生活保護と介護を中心に学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域資源創成学部地域資源創成学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 発 展 科 目	地 域 創 造 コ ー ス 科 目 群	コ ー ス ア ド バ ン ス ト 科 目 群	<p>ジェンダーと法</p> <p>【授業のねらい】 ジェンダーの概念は、時代や社会とともに変化する。現代社会におけるジェンダーの概念とそれに関する法について検討したい。具体的には、ジェンダーとは何かを明らかにした上で、婚姻、離婚、出産などに多様に存在するジェンダーの概念とそれに関する法の状況、問題点等を示し、今後、法がどのようにあるべきかを各自が検討できるようにする。</p> <p>【授業概要】 講義では、ジェンダー概念を明らかにした上で、婚姻、離婚、親子そして相続に関する法を説明し、これらに係わるジェンダーの概念とジェンダーバイアスとしてどのようなものが存在するのかを示す。ジェンダーバイアスをどのように考えるべきか、判例、学説、諸外国の状況を示し、法がどのようにあるべきかを討論させることにより、法に存在するジェンダーバイアスの問題をより深く理解させることを目指す。</p>
			<p>財産法</p> <p>【授業のねらい】 民法の財産法を中心に学ぶことにより、契約の成立から契約の終了までの一連の流れ、交通事故など契約とは関わりのない原因から権利の発生を認める不法行為等を理解する。また、これらに関して当事者として問題に直面した際に、問題を解決する能力を取得し、実務的な能力の取得をめざしたい。</p> <p>【授業概要】 授業の構成は、契約の成立・効果・終了、不当利得、不法行為からなる。不当利得と不法行為は、契約以外の原因から債権が発生することを認める法制度である。これらは、財産法の理解には、必ず必要となる概念であり、我々が生活する上で欠かすことのできない概念でもある。授業内容としては、概念的な説明をすることを中心とする。理解を深めるため、判例の紹介、演習問題も課すこととする。</p>
			<p>地域創造実践 I</p> <p>【実習のねらい】 実習先の現状調査等を行い、地域資源理解力を高めるとともに、課題解決のための地域資源活用企画力を身につける。 ①実習先の現状等について適切に状況を把握し、必要なマーケティング調査をグループで協力して実行できる。 ②調査結果を整理分析することで課題を見いだし、様々な発想と知識に基づいて、戦略を複数構築することができる。 ③実習先の担当者と協働で戦略を改善し、実践できるプロジェクトにすることができる。</p> <p>【実習概要】 少人数グループで、地域自治体から掘り起こした課題を整理・分析し、その解決策を提案するとともに、提案に対する評価を行い、実践に向けた改善案を作成する。</p>
			<p>地域創造実践 II</p> <p>【実習のねらい】 プロジェクトの実践により、地域資源活用実践力を身につける。 ①実践に向けた具体的な企画や計画(ロードマップ)を様々なリスクも想定し、策定することができる。 ②グループや実習先の担当者と協働でプロジェクトを実践するとともに、突発的に発生する問題等にも柔軟に対応し、統率力をもって粘り強くプロジェクトを実行できる。 ③実践後には、的確にプロジェクトについて自己評価できる。</p> <p>【実習概要】 グループの企画や課題解決策について、実際に地域の方々と協働してプロジェクトを実践することで、マネジメント力を養うとともに、地域資源活用の実際を知り、その評価(自己評価、地域からの評価)を行う。</p>
			<p>地域創造実践 III</p> <p>【実習のねらい】 プロジェクトの経験や評価結果等を踏まえ、最終戦略や報告書を作成し、プレゼンテーションできる力を身につける。 ①実践経験や評価結果と専門科目で得た知識を踏まえ、最終的な戦略をグループでまとめることができる。 ②1年半の実習での取組や成果について、最終報告レポートを作成することができる。 ③報告会で的確なプレゼンテーションができる。</p> <p>【実習概要】 地域創造実践 II の結果を踏まえ、その評価結果や各個人が身に付けた異分野的視点も交えながら、地域の方々と共に改善プランを作成する。</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(地域資源創成学部地域資源創成学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 発展 科目	コー スア ドバ ンスト 科目群	企業 マネ ジメ ント コー ス 科目	【授業のねらい】 会計学Ⅰで習得した知識を踏まえ、日本の会計制度における財務情報集積と公開のルールや手続に関する概略的知識を習得する。さらに実践的会計情報の活用能力獲得を目指し、公表された財務情報を自ら収集し、これを加工・分析し、時系列比較や同業他社比較によって、当該企業の状況について一定の見解を形成し、それを意見交換・修正・他者への説明実践をする。 【授業概要】 まず財務諸表の各構成・区分、及び表示金額(数値)に関する認識・測定原理を理解。それに続き財務分析指標に関する基礎知識を講義形式で習得。その後、EDINETを中心に、履修者自身にとって興味のある業界・企業を対象として財務情報を収集、数年分の財務諸表に基づき時系列の財務分析を実践(その結果はレポートとして提出課題となる)。さらに興味のある業界別にグループに分かれ、業界ごとに同業他社比較を実施、比較内容をグループでひとつつパワーポイント資料に取りまとめ、グループ発表を実施する。	
			【授業のねらい】 卒業後多くの学生は何らかの組織に所属して仕事をする事になると思われる。組織の成果は組織の個々の構成員の意思決定の質に依存する。理論とケーススタディーを通じて組織の各階層における意思決定の質を改善し、組織活性化に貢献できるスキルを習得することを最大の目的とする。 【授業概要】 組織のパフォーマンスは組織の構成員の意思決定に依存する。この講義では意思決定を体系的科学的に捉え、組織に貢献するための知識とスキルを理論とケーススタディーを通じて体得する。まず、意思決定理論を概括的に学習した後、組織の意思決定とパフォーマンスの関係を理解する。組より具体的にイメージが持てるよう優良企業と倒産企業の特徴を勉強する。以上の準備を踏まえて、プロジェクトベースの意思決定から出発し、経営者の意思決定までを段階的に追体験することにより、組織を自在に動かす、組織の目標を達成するために必要な知識・視野・スキルを体系的・実践的・効果的に学ぶ。	
			【授業のねらい】 本科目では、ケースメソッドを用い、教員が進行役となり、個別の経営課題に関わる問題をいかに解決するかの視点に立って、意思決定者の立場にたった訓練を行う。「現実の重視」、「一般論よりも個別の理論重視」、「経験の重視」に焦点をあて、学生同士の討議を繰り返すことで学生が主体的・実践的に学ぶ。すなわち、クラスは教員から知識を得るのではなく、教員と学生全員で「知を作り上げる場」となる。 【授業概要】 講義では、①地場産業、観光産業、6次産業等の経営戦略の講義とディスカッションを行う。②日本の代表的企業や教員自作のケースを活用した「ケースメソッド方式の授業」を行う。ケースメソッド方式の授業では、事前にリーディングアサインメントを課したのち、授業に於いてケースの要点を整理し、グループでのリサーチを行い、次週にグループディスカッションと学生全員によるクラスディスカッションを行う。事実に基づいたケースを教材にすることで、唯一絶対の正解がないテーマに取り組み、「自分はどう考えるのか」、「それはなぜなのか」を徹底的に議論する。	
			【授業のねらい】 現実企業の経営・事業現場では様々な課題・問題が山積している。それらは現象として目の前に立ちはだかるが、その問題に戦略や会計といったラベルない。つまり、事実の中から何が問題かを自ら発見し、そしてその問題を解決することが不可欠な能力になる。この授業ではこの問題発見能力に重点を置きつつ、その解決方法までを対象に各分野の専門家の先生と共同で授業を行う。 【授業概要】 現実の経営の現場では、無数の事実が駆け巡っており、それらが複雑に絡み合い物事の本質を見えにくくしている。企業経営を分析するためには、生起している諸現象の中から真の問題とその原因を発見してこれを解決することが求められるが、現場では問題は現象の奥深くに隠れ、または複雑に絡み合い、その存在がとも見えにくくなっている。本来、問題がきちんと定式化できれば、様々な知見の蓄積によりその解決方法は比較的容易に見いだすことができる。つまり適切に問題を解決するためには、適切に問題を発見する能力とスキルが見いだすことができる。本講義では前半で各科目の先生と共同して所与の問題の解決方法を復習した後、総合演習を通じて問題の発見力を磨く。	オムニバス
	企業経営分析	<オムニバス/全15回> (2 谷田 孝/3回) ①企業経営とは、②企業経営分析とは(問題の発見)、⑬未来を切り開くための企業経営分析(4 金岡保之/4回) ③経営戦略分析(1)、④経営戦略分析(2)、⑨総合分析の手法、⑩総合演習(1)(4 園弘子/4回) ⑤会計戦略分析(1)、⑥会計戦略分析(2)、⑪総合演習(2)、⑫総合演習(3)(18 土屋 有/4回) ⑦事業戦略(1)、⑧事業戦略(2)、⑬総合演習(4)、⑭総合演習(5)		
	マーケティング論Ⅲ	【授業のねらい】 マーケティングの基礎的知識の確認及び実践的なマーケティング思考を深めていく授業となる。一般的な教科書にあるグローバル・マーケティングではなく、小規模、創業期、地方における企業において実際のビジネスシーンで通用するマーケティング感覚を習得する。テーマは即戦性、実践性となる。 【授業の概要】 創業期を含む小規模、地方企業のマーケティング戦略を分析から課題の抽出、対策案に関してのプレゼンテーションを3サイクル行うことで、実践力の獲得を行います。また実際の企業担当者からの課題提示に対して、調査、企画、提案までを行い、フィードバックを受けます。実際の企業のマーケティング及びビジネス全般活動への理解を通して、自らが企業などに参画し活躍するためのケーススタディベースでの講義を行う。		

授 業 科 目 の 概 要			
(地域資源創成学部地域資源創成学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 発 展 科 目 コ ー ス ア ド バ ン ス ト 科 目 群 企 業 マ ネ ジ メ ン ト コ ー ス 科 目	ベンチャービジネス論	<p>【授業のねらい】</p> <p>日本経済の再生に向けて改めてベンチャービジネスが注目されている。ベンチャービジネスとは、常に変化する環境の中で、市場や顧客が求める新しい価値を生み出していく事業活動であり、一から新しい事業を立ち上げていく起業家(アントレプレナー)によって生み出される。必ずしも「ベンチャービジネス＝起業・新規創業」ではなく、新しい事業や企画を立ち上げていく機会はあるどのような組織においても存在する。本講義では、ベンチャービジネスの基礎的な理解だけでなく、自らが実践者となるノウハウとマインドを習得することをねらいとする。</p> <p>【授業概要】</p> <p>本講義では、まず基礎的な理解として、ベンチャービジネスの意義や注目されている背景、経営学におけるベンチャービジネスの位置づけを学ぶ。続いて、起業のプロセスとして、事業の出発点となるアイデアの創出、アイデアから収益を生むビジネスモデルの構築、そして、具体的な計画としてのビジネスプランの立案、ベンチャーファイナンスの基礎について学ぶ。また、ベンチャービジネスの競争力の源泉ともなる知的財産権、ベンチャー支援政策についても授業を行う。ベンチャービジネスは極めて実践的な内容であり、起業家という「人」に触れ、実像を理解するために、外部講師を招聘したケーススタディを2回行う。後半では、演習として、宮崎県の地域課題解決を目指した事業計画を立案し、最後にグループ発表を行う。</p>	
	ビジネスプランニング	<p>【授業のねらい】</p> <p>新規創業や起業に限らず、事業活動の際には、ビジネスプランニング(計画づくりの基礎と実践)の考え方は必須である。本講義では、ビジネスプランニングに必要な経営学の理論やフレームワークを学び、実際に地域課題(予定)に基づいたプランを作成する。ビジネスプランニングに関わる基礎知識を身に付けるだけでなく、プラン作成の演習を通じて、実践的なノウハウを学ぶことをねらいとする。</p> <p>【授業概要】</p> <p>講義は、主担当及び副担当による講義、ならびに、計5回の演習(グループワーク)形式で行う。まず、前半では、ビジネスプランニングに関わる基礎として、ビジネスプランの構成や目的、アイデアからコンセプトに落とし込む過程、収益を生む構造としてのビジネスモデルを学ぶ(第1回～第4回)。初回の演習では、教員からの地域課題の提示を受けて、グループ毎にディスカッションを行い、ビジネスモデルの検討を行う。第7回から第11回は、副担当の教員による講義として、組織づくり、戦略、マーケティング、ファイナンス、コンテンツビジネス、それぞれの視点・側面から、ビジネスプランニングの考え方や重要性、事例等について学ぶ。第13回は、ビジネスプランニングのポイントとして、投資家(ベンチャーキャピタル等)の外部講師による講義を予定している。第14回、第15回には、作成したビジネスプランの発表会を行い、主・副担当からの講評や他のグループからのコメントを得る。</p> <p>&lt;オムニバス/全15回&gt; (10 丹生見隆/7回)</p> <p>①ビジネスプランニングとは何か、②ビジネスプランの構成、目的、アイデアからコンセプトへ、③ビジネスコンセプト(ミッション、経営理念等)、④ビジネスモデル(ターゲット市場、競合、価値創造)、⑤演習1:ビジネス課題の提示、グループ分け、ディスカッション、⑥演習2:ビジネスモデルの検討、⑨ビジネスプランニングのポイント(投資家からの視点) (2 谷田貝 孝/1回)</p> <p>⑧ビジネスプランニングにおける組織づくり(考え方、重要性、事例等) (4 金岡保之/1回)</p> <p>⑨ビジネスプランニングにおける戦略(考え方、重要性、事例等) (18 土屋 有/1回)</p> <p>⑩ビジネスプランニングにおけるマーケティング(考え方、重要性、事例等) (4 園 弘子/1回)</p> <p>⑪ビジネスプランニングとファイナンス(考え方、重要性、事例等) (8 田中 雄之/1回)</p> <p>⑫コンテンツビジネスにおけるビジネスプランニング(考え方、重要性、事例等) (10 丹生見隆・2 谷田貝 孝・④ 金岡保之・18 土屋 有・4 園 弘子・⑧ 田中 雄之/3回)(共同)</p> <p>⑦演習3:中間発表会、⑭演習4:発表会(1)、⑮演習5:発表会(2)</p>	オムニバス
	多国籍企業論	<p>【授業のねらい】</p> <p>経済のグローバル化が進み、大企業や製造業に関係のある企業だけでなく、中小企業やサービス関連企業も海外進出を行う時代が到来している。さらに、外資系企業による日本市場への参入により、我々は海外をより身近に感じることができるようになっている。そこで本授業では、経済のグローバル化を推し進める中心的な担い手である、多国籍企業に関する理論と事例を紹介しながら、多国籍企業の海外事業活動の実態や発展過程を学ぶ。</p> <p>【授業概要】</p> <p>グローバルに企業活動を展開する多国籍企業は、自社の利益の極大化を図ることを目的とし、全世界を視野(世界戦略の下)に海外事業活動を展開している。本講義では、まず経済のグローバル化と企業とは何か、多国籍企業とはいかなる存在か、を論じた上で、多国籍企業に関する理論を紹介する。その上で、近年の新興国企業の台頭、サービス化・情報化についても解説を加える。また多国籍企業の海外事業活動は、国内外経済を一体化させるとともに、従来の製造業から流通・商業、金融、さらにはIT、コンテンツ分野へと広がっている。よって国籍を問わず具体的な多国籍企業の経済活動についても紹介する。</p>	
技術経営論	<p>【授業のねらい】</p> <p>企業は、常に変化する環境の中で、市場が求める商品やサービスを常に提供し続ける必要がある。技術経営(Management of Technology(MOT))の目指すところは、この激変する市場環境に適応するため、価値を生む基盤としての技術に着目し、技術をベースに新しい価値を生み出すことにある。本講義では、新しい経営学として、技術に関わる経営学、技術を活かす経営学の体系を学ぶことをねらいとする。</p> <p>【授業概要】</p> <p>毎回、講義形式で授業を行う。まず技術経営とは何か、技術経営が必要とされるようになった背景や社会環境の変化について理解を深める(第1回、第2回)。続いて、技術経営に関わる基礎概念として、イノベーションと技術、研究開発のプロセス、製品アーキテクチャ、顧客価値創造の考え方について学ぶ(第3回～第6回)。次に、技術経営に関わる具体的な戦略として、コア技術戦略やプラットフォーム戦略、アライアンス戦略について学ぶ(第7回～第9回)。また、技術経営に関わるトピックとして、リスクマネジメントやアントレプレナーシップを取り上げる(第10回、第11回)。後半では、それまでに学んだ知識を整理し、応用すべく、企業の実例に基づいたケースディスカッションを行う(第12回～第14回)。授業では毎回ミニテストを行う。</p>		



授 業 科 目 の 概 要			
(地域資源創成学部地域資源創成学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 発 展 科 目 こ う る ー す ア ド バ ン ス ト 科 目 群 企 業 マ ネ ジ メ ン ト 科 目 こ う る ー す 科 目	地域産官学マネジメント論	<p>【授業のねらい】 地域社会には、企業(産)や地方自治体(官)、大学や研究機関(学)等の様々なアクターが存在する。企業や地域にとって、新しい事業を生み出していくためには、自前で研究開発を行うだけでなく、外部の機関と効果的に連携をしていくことが求められている。そのための手法が産官学マネジメントである。本講義では、産・官・学それぞれの役割を理解した上で、どのように連携を進めていくのか、地域課題に直面した時に、産・官・学を繋げ、解決の一步を踏み出すための実践的手法を学ぶことを目的とする。</p> <p>【授業概要】 本講義では、まず基礎的な理解として、地域における産・官・学の役割や連携の意義、産官学連携に関わる歴史と政策について学ぶ。続いて、連携のプロセスに関わる内容として、経営と技術、技術の商業化プロセス、オープンイノベーションについて学ぶ。産官学連携には、大学の研究成果(シーズ)をスタートとしたものと、企業側の課題(ニーズ)を発端としたもの、地域活性化やまちづくりのための連携と、大きく3つに分けられる。講義では、宮崎大学の産官学連携事例として、フードビジネスに関わる2事例、地域の事例として綾町を取り上げる予定である。後半では、連携におけるコーディネータや支援者の役割を考え、外部講師による講義を行う。最後に演習として、宮崎県の地域課題を踏まえた連携プランを立案し、グループ発表を行う。</p>	
	ICTと地域産業	<p>【授業のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最先端のICTを利活用できる能力を養う。</li> <li>他学部の研究を知ると同時に自学部の研究に応用する「学部横断的な発想」を身につける。</li> <li>新規ビジネスの実現可能性を模索することで、起業、大学発ベンチャー、産学連携のあり方を実践的に学ぶ。</li> </ul> <p>【授業概要】 ICTは、地域産業活性化に必要不可欠である。講義では、すでに地域活性化の為にICTを利活用している事例を調査し発表する。 また、工学部や農学部のICTの応用研究を学び、地域資源創成学部の学生が、地域の起業や産業にその技術をどのように活用することができるかを議論し、ビジネスモデルとして発表する。 最後に、企業関係者を大学に招き、学生プレゼンテーションのビジネスモデルの実現可能性などについて評価や感想を得る。</p> <p>&lt;オムニバス/全15回&gt; (4) 金岡保之/13回</p> <p>①オリエンテーション、②地域の企業と産業、③ICTの利活用、④リサーチ: ICTを利活用した地域活性化の事例研究(グループ調査)、⑤プレゼンテーション: ICTを利活用した地域活性化の事例研究(グループ発表)、⑥ICTを利用した農業の事例1(太陽農園)(外部アドバイザーを招いて)、⑦ICTを利用した農業の事例2(新福青果)(外部アドバイザーを招いて)、⑧ビジネスモデルと起業、⑨リサーチ: ICTを利活用した地域活性化のビジネスモデルの提案(グループ調査)、⑩プレゼンテーション1: ICTを利活用した地域活性化のビジネスモデルの提案(グループ発表とクラスディスカッション)、⑪プレゼンテーション2: ICTを利活用した地域活性化のビジネスモデルの提案(グループ発表とクラスディスカッション)、⑫地域企業へのプレゼンテーションとディスカッション(公開型)、⑬まとめ(62 坂本 真人/1回)</p> <p>⑥ICTを利用した工学部の事例1:画像処理、CG、AR(拡張現実)など映像技術の応用(49 山森 一人/1回)</p> <p>⑦ICTを利用した工学部の事例2:機械学習を応用した食品機能推定法の開発</p>	オムニバス
	次世代技術と産業	<p>【授業のねらい】 地域社会が持続可能であるためには、収入を得る機会、雇用の機会が必要である。地域の産業は収入、雇用の機会を提供している。他方、産業は常に変化する市場環境の中にあり、変化に対応し続けなければ事業を継続できない。その対応のひとつとして、産官学連携と次世代技術・研究について学ぶ。</p> <p>【授業概要】 宮崎県の産業について、県外からの「外貨」獲得、県内の雇用に貢献している主要な企業、産業について、現状、歴史、課題等を学ばせる。いくつかの企業を例に取り、社内技術、社内人材だけでは対応できなかった課題に対して、社外の技術、人材を活用して技術開発や市場変化への対応を図った例を学ばせる。さらに、宮崎大学工学部が、県内県外企業の次世代技術へのニーズに対する宮崎大学の研究成果、地域貢献してきた事例、今後貢献が見込まれる事例を学ばせる。</p> <p>&lt;オムニバス/全15回&gt; (2) 吉田雅彦/12回</p> <p>①ガイダンス・地域社会の持続可能性、②地域社会と主要産業、主要企業の関係、③地域外から「外貨」を獲得する移輸出型産業(農林水産業、製造業、観光等)、④地域内消費向けの地域消費型産業(食品加工業、サービス業等)、⑤宮崎大学産学・地域連携センターの活動、⑥宮崎大学産学・地域連携センターの産官学連携事例(1)(教官、コーディネーター、企業経営者による共同講義)、⑦産官学連携の必要性と手法(オープンイノベーションと産官学ネットワーク)、⑧宮崎大学産学・地域連携センターの産官学連携事例(2)(教官、コーディネーター、企業経営者による共同講義)、⑨2000年以降の日本の景況変化と産業、企業への影響、⑩企業の市場変化への対応事例(1)、⑪企業の市場変化への対応事例(2)、⑫なぜ産業は次世代技術を必要とするか(まとめ)</p> <p>(45 淡野 公一/1回)</p> <p>⑩宮崎大学工学部の次世代技術①(集積回路と電子機器の農業や医療への応用)(78 西岡 賢祐/1回)</p> <p>⑫宮崎大学工学部の次世代技術②(電子物理学と実用化)(79 田村 宏樹/1回)</p> <p>⑬宮崎大学工学部の次世代技術③(介護ロボットと生活支援システム)</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要				
(地域資源創成学部地域資源創成学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 発 展 科 目	企 業 マ ネ ジ メ ン ト コ ー ス 科 目 群	コミュニティビジネス論	<p>【授業のねらい】 講義を通じてコミュニティビジネスについての一般的知識を身につける。さらに、地方自治体等からの要請をふまえ地域が抱える問題をビジネスでどのように解決するのか具体的なテーマを設定し、受講生が自らコミュニティビジネスの企画提案とその評価を受けることを通じてコミュニティビジネスについての理解を深める。</p> <p>【授業概要】 講義では、コミュニティビジネスとは何か、なぜコミュニティビジネスが注目されるのかその背景について解説するとともに、全国及び宮崎県内の先進事例について解説する。そして県内の先進事例に取り組むキーパーソンをゲスト講師として招き、事業の背景や今後の課題について理解を深める。さらに、県内地方自治体等からの求めに応じてコミュニティビジネスとして取り組むテーマを設定し、実際に立ち上げることをイメージしながらその企画提案を行い、関係者を招いてのプレゼンテーションと合同評価を行うものとする。</p>	
		企業マネジメント実践Ⅰ	<p>【実習のねらい】 実習先の現状調査等を行い、地域資源理解力を高めるとともに、課題解決のための地域資源活用企画力を身につける。 ①実習先の現状等について適切に状況を把握し、必要なマーケティング調査をグループで協力して実行できる。 ②調査結果を整理分析することで課題を見だし、様々な発想と知識に基づいて、戦略を複数構築することができる。 ③実習先の担当者との協働で戦略を改善し、実践できるプロジェクトにすることができる。</p> <p>【実習概要】 少人数グループで、企業から掘り起こした課題を整理・分析し、その解決策を提案するとともに、提案に対する評価を行い、実践に向けた改善案を作成する。</p>	
		企業マネジメント実践Ⅱ	<p>【実習のねらい】 プロジェクトの実践により、地域資源活用実践力を身につける。 ①実践に向けた具体的な企画や計画(ロードマップ)を様々なリスクも想定し、策定することができる。 ②グループや実習先の担当者との協働でプロジェクトを実践するとともに、突発的に発生する問題等にも柔軟に対応し、統率力をもって粘り強くプロジェクトを実行できる。 ③実践後には、的確にプロジェクトについて自己評価できる。</p> <p>【実習概要】 グループの企画や課題解決策について、実際に企業の方々との協働してプロジェクトを実践することで、マネジメント力を養うとともに、地域資源活用の実際を知り、その評価(自己評価、企業からの評価)を行う。</p>	
		企業マネジメント実践Ⅲ	<p>【実習のねらい】 プロジェクトの経験や評価結果等を踏まえ、最終戦略や報告書を作成し、プレゼンテーションできる力を身につける。 ①実践経験や評価結果と専門科目で得た知識を踏まえ、最終的な戦略をグループでまとめることができる。 ②1年半の実習での取組や成果について、最終報告レポートを作成することができる。 ③報告会での確かなプレゼンテーションができる。</p> <p>【実習概要】 企業マネジメント実践Ⅱの結果を踏まえ、その評価結果や各個人が身に付けた異分野的視点も交えながら、企業の方々と共に改善プランを作成する。</p>	
卒業研究	卒業研究	これまで培った知識や能力を総合し、地域資源を活用し、実際に社会に有用な成果を創出することを目標に、課題発見から解決策の立案・実施、その検証と評価までを実践する。		

※基礎教育科目の括弧書きは科目群を示す。